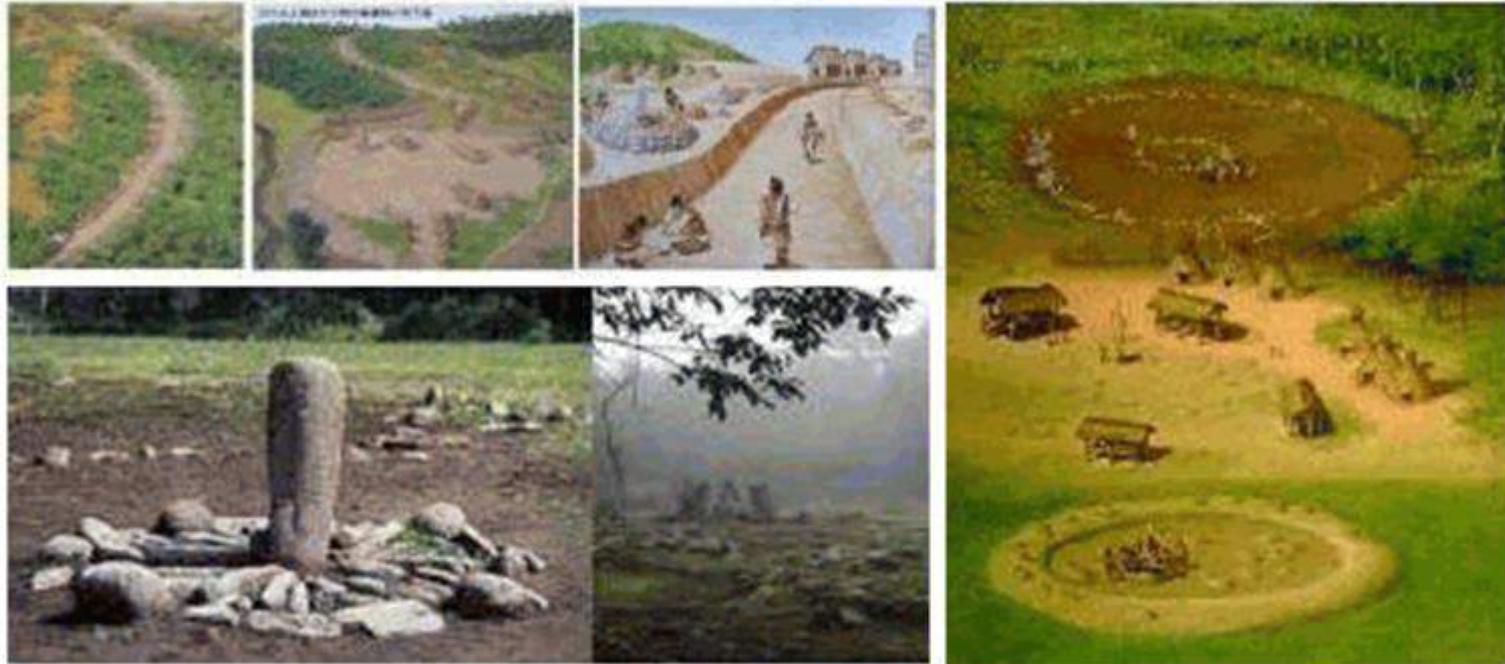


縄文の心を映すストーンサークル

— 縄文の円環を訪ねて —

改訂版 2015.10.10. by Mutsu Nakanishi



鹿角 大湯ストーンサークル

嵐山 伊勢堂古墳跡

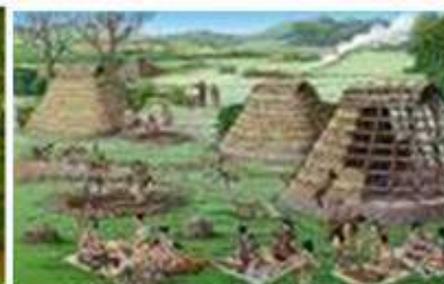
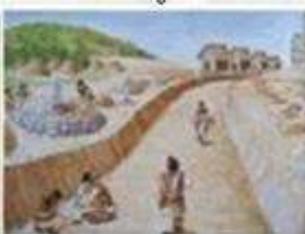
貴森 小牧野遺跡



縄文人の精神世界と深くかかわった「縄文の渦巻き・同心円紋」文化



図5 「縄文のビーナス」 2003.12.8 茨城県立歴史館



「縄文の心を映すストーンサークル 縄文の円環を訪ねて」 [レジメ]

1. はじめに

- 縄文人の精神世界を語る赤坂寛雄さんの講演に魅せられて、縄文を訪ねだしました

- ◎ ストーンサークルは縄文の心・世界観を映す

- ◎ 「戦さ・穢れをしらず、死者を忌み嫌わず、心やさしき縄文人」

- 「日本人の心・和(環)をもって 貴し」

- ストーンサークルに魅かれて

ストーンサークルに魅かれるのは その円環ばかりでなく、日時計状遺構の存在

これがなければ、こんなに魅かれないだろう この円環と日時計状遺構が人をひきつける

この円環と石柱 これは何を表し、一体となって どんな縄文の心・世界観を表すのだろうか・・・

- 縄文人の作り出した円環遺構

土器文様をはじめ、縄文人は自分たちの生活の中で 数々の「円環」「同心円」のパターンを繰り返し使っている。

そして、彼らの残した遺構にも数々の「円環」が現れる。

環状集落 環状・馬蹄型貝塚 馬蹄型盛土 環状列石 周堤墓 ウッドサークル

そんなことに魅かれて、縄文のストーンサークルはじめ、縄文人が作り出した円環遺構を訪ねました。

わたしの話は結論がありません。

かつて、訪ねた縄文人の円環遺構のアルバムを提供しますので、それぞれで、考えていただきたい。

2. 定住村の形があらわす縄文の「精神文化・世界観」を考える

1. 共同墓地のある広場を住居群が取り囲む縄文の環状集落 岩手県西田遺跡・長野県梅ノ木遺跡・井戸尻遺跡

この心が自然と円環集落を作り上げ、自然の中にある「円」と「柱」を強く意識させた????

2. 縄文人の精神文化を支える「円」と「柱」

- 円柱と柱に「自然への恵みと畏敬」「命・再生の願い」をかけたのではないか ????????

円 : 自然 大地・太陽

柱 ハシ・ハシラ : 天上と大地 生者と死者等々異界をつなく (森本哲郎さんの説)

諏訪大社 御柱祭 伊勢遷宮御柱 端・橋・箸・梯・柱・舂

天空にまっすぐ立つ巨木にエネルギーを感じて 数々のモニュメントが造られた

「円+柱」で 生活の場「村・大地」そして「山」「神奈備山」へと広がったのではないか?????

- 石棒を中心に回りに石を配する三内丸山遺跡の小型のストーンサークル墓が立ち並ぶ墓の道

埋葬された死者が天空と大地・村を通う出入り口がストーンサークルではないか????

そして この円環が大地・村・自然へと広がっていったのではないか???

もちろん、死者と生者とをつなく?????

これらと同じようにして、数々の縄文の円環が意識され、展開して行ったのではないだろうか・・・

1. 縄文人は死者を忌み嫌わぬ文化 それが遠緯と東北には続く 屋敷庭墓⇔西日本埋葬墓と折り墓の両墓製
2. お産・血に対する穢れ意識がない 住居内でのお産・住居の入り口付近に幼児・胎児の埋葬と石棒
3. 広場・墓地を中心とし 住居がそれを取り囲む環状集落 墓を作る意味
4. 土偶
5. 縄文土器 現代に通じるダイナミックなエネルギー その形・文様にこめた願いと祈り

3. ストーン サークル形成の目的と意味

- 定住生活と協業と階層の発生
- 定住化による人口増・気候の変化に伴う分村
- ストーンサークルの目的
 1. 分村にともなう共同祭祀の場
 2. 分村に伴う共同の墓
 3. パラバラになった村をつなぐ 階層の発芽

4. ストーン サークルの変遷

- 三内丸山墓の道→小型ストーンサークル→集落内ストーンサークル→集落外ストーンサークル
集落外ストーンサークルの位置 交通の要衝・地域を隔てる境界
三内丸山遺跡・長野県大野遺跡・大湯遺跡

5. 縄文の心を映す「縄文の円環遺構」



ストーン サークルと木柱列 その両方が一緒に立ち並ぶ縄文遺跡が、糸魚川 寺地遺跡にあるのをみつけました。
縄文のストーンサークルの東日本・ウッドサークルの北陸・御柱の諏訪・信州の文化圏の重なる縄文人交流の拠点
姫川に近い海を臨む糸魚川市青海の高台 縄文中期から続く翡翠の加工工房集落で

そのジオラマが新潟県長岡市の県立歴史博物館にあり、当時の縄文の村・円環遺構を再現している

東日本には数々の縄文の円環遺構が見つっている。しかし、西日本・関西では まだ発見されていない
関西にもストーンサークルはあるのだろうか・・・

西日本の縄文人は「縄文人の絆・心の象徴」の象徴を何に求め、どこで 祭りをしたのだろうか・・・

神奈備山と磐座 この流れが 西日本の中心か・・・

弥生の時代になると放棄されてしまうが、神奈備山と自然信仰・御柱そして各地に残る磐座は 時代を超えて受け継がれ、
日本人の心の象徴として続いていくのではないか・・・



糸魚川市 寺地遺跡 配石遺構 復元ジオラマ と遺構配石と木柱列の配置図

6. まとめ 縄文のストーン サークルとは・・・ (Mutsu Nakanishi の私見 根拠はありません)

再生・命の絆 それを天空・自然に求める縄文

ストーンサークルと日時計状配石・木柱列と御柱 それらは 生者と死者 集団 まだ見ぬ異界をつなぐ象徴

縄文人はそれらを通じて会話しながら 縄文の社会・文化をはぐくんできたのではないか

縄文の心を映すストーンサークル

- 縄文の円環を訪ねて -



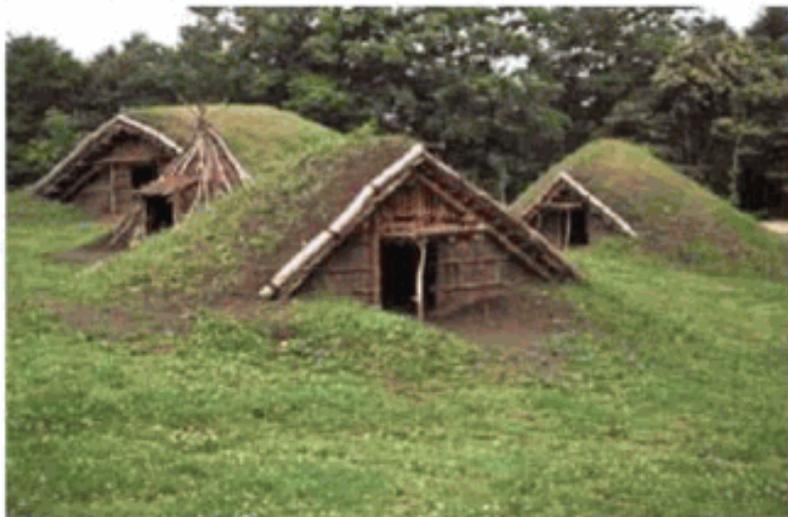
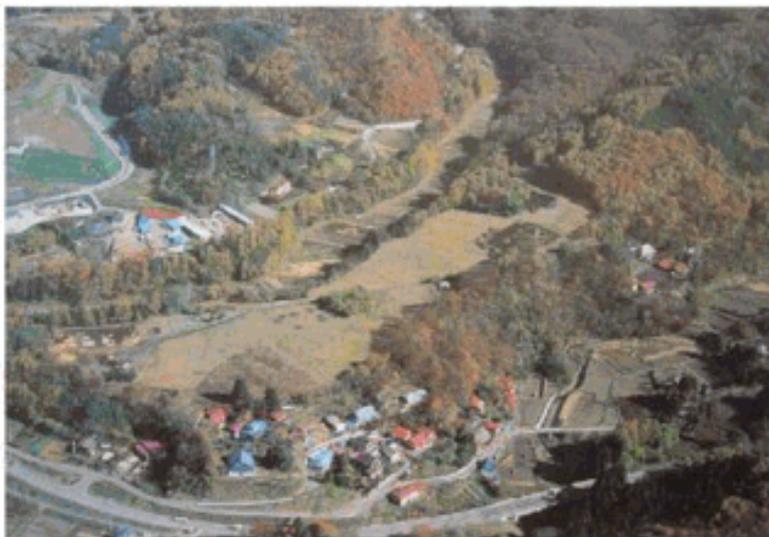
鹿角 大湯ストーンサークル

嵐山 伊勢堂古遺跡

青森 小牧野遺跡

川や海近くや森や林に囲まれた山の高台に位置なまれた縄文の集落
中央の先祖たちが眠る広場を取り囲んで住居が立ち並び そして 近くにはストーンサークル
永遠の継続再生を願うのか 円・渦巻き文様に彩られた生活豊かな縄文文化が花開いた

岩手県御所野縄文遺跡



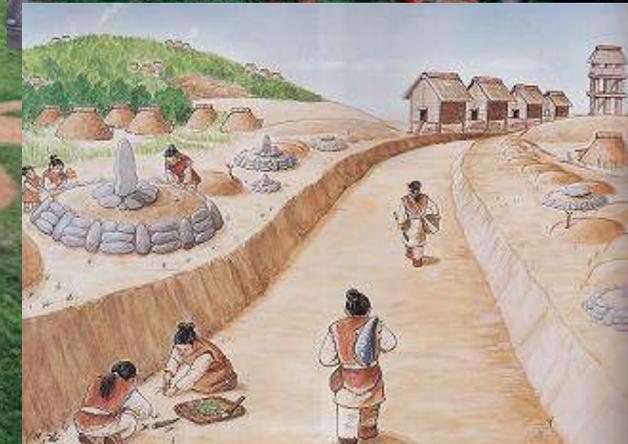
配石遺構の1例 径2mほどの規模で環状の縁石をめぐるし、内側にも石が置かれています。ほかにも中央に大きな石、平たい石を置くものが見られます。

日本人のこころのふるさと 戦・けがれを知らず 村の中に祖先といっしょに暮らす縄文の集落

青森 三内丸山縄文遺跡



三内丸山遺跡 全景



日時計型配石が立ち並ぶ墓の道



村の道には
小型のストーンサークル

約1万年前に始まる縄文時代 素晴らしい縄文文化が花開く
少なくとも約8000年の長きにわたって
戦さもなく存続した平和で豊かな暮らしの時代があり、
豊かな森や海に恵まれた世界に類のない長い平和な時代が続いた
この縄文文化を支えた縄文人たちの心に触れてみたいと。



三角 大湯ストーンサークル

蘆葉 伊勢堂岬遺跡

青森 小紋野遺跡

縄文がえりの勧め

心優しき縄文の村

幼くしてポリオにかかった少女が 縄文の村で みんなに守られ ずっと暮らしていた

「景色のいい素晴らしい高台に暮らす心優しき縄文人」 「縄文のこころを映すストーンサークル」と
縄文に魅せられて縄文の遺跡を訪ねはじめて、もう10数年になる。

先日 テレビを見ていたら

「狩猟・採取 自分の食糧確保に精一杯であった縄文時代に
4000年前の北海道の縄文の村で 幼くして小児麻痺にかかった少女が
成年期を経て一生みんなに 見守られて その村で暮らしていた。
その痕跡を示す骨が北海道洞爺湖の近く噴火湾や有珠山を望む入江貝塚縄文遺跡で見つまっている」と。

■ 入江・高砂貝塚縄文遺跡



北海道洞爺湖の近く噴火湾や有珠山を望む海岸の高台にある縄文時代前期
から後期(約5000～3500年前)にかけて形成された貝塚・住居・
墓を伴う大規模な集落。

<http://www.town.toyako.hokkaido.jp/iritaka/index.html>

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/dbs/jomon/remains/is_iritakasago01.htm

● ポリオで20歳まで生きた 縄文時代、家族が介護？

西日本新聞 「先人たちのカルテ 病とともに」 2008年11月02日の記事より 抜き出し
http://qnet.nishinippon.co.jp/medical/doctor/feature/post_673.shtml



1966、67年に北海道洞爺湖町の縄文時代の入江貝塚で出土し、「入江9号」と名付けられた約4000年前の人骨は、頭部が普通の大きさなのに、両腕と両脚が極端に細い。指や足の骨は、長い年月の間に分解し消えていた。

何らかの理由で四肢がまひして寝たきりとなり、筋肉が衰えて運動もできなかったため、骨が発達しなかったとみられる。鑑定した東京都老人総合研究所の鈴木隆雄副所長は「おそらく、ポリオ(小児まひ)の患者だろう」と推測する。

ほかの動物に狩猟・採取の生活をみると

「乳離れするまでは 面倒を見るにしろ

狩猟・採取の移動の中で 群れについてゆけなくなると置いてきぼり」
それが狩猟・採取の生活の厳しさである。

そんな縄文狩猟・採取の時代に 幼くして小児麻痺にかかった少女が
成年期を経て一生 多くの人たちに見守られ
てその村で暮らしていた。



四肢の麻痺が起った縄文後期人(レプリカ) 北海道 入江貝塚
資料館 科学博物館の展示品

「先祖を葬った墓地の広場を丸く取り囲んで竪穴住居を連ねて暮らす縄文の村」「ストーンサークルでの祭」そして「再生を願う渦巻文様」などなどが「戦さを知らぬ心優しき縄文人」の精神生活を示す象徴と言われてきましたが、直接その痕跡を見ることができなかった。

現代人が忘れかけている「こころの優しさ」を見るような気がしています。

心優しき縄文人 縄文帰りの勧め

【鉄の雑記帳】 日本人の心のふるさと「心優しき縄文人」の知恵

「利他的精神」について 朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・ 2014.6.1.

◆ 競争社会から成熟社会へ移行する日本に必要なのは「縄文かえり・心の優しさ」では・・・

ヒューマンを特徴づける「利他的精神」がこんなところにも

2014.5.6. 朝日新聞「天声人語」より

天声人語

おもしろい実験をネットでみた。2本の高速道路が合流する場合、どうすればすんなりと車線変更できるかを探っている。「渋滞学」の生みの親として知られる東大の西成活裕教授が説明役だ▼車の代わりに人間が二つの道を歩く。合流する直前まで互いが見えない状況ですぐに車線変更しようとする、ぶつかりそうになったり、詰まったりする。危ない。そこで合流地点から一定の距離を車線変更禁止とする。するとその間、互いを見合い、譲り合いながら車線を変えられるようになる▼われ先に走るよりは、まわりとコミュニケーションを取りながら運転するほうが、結果的に速くなる。車間距離を十分に取ることなどとともに、道路の流れをよくするための知恵である▼この実験は「利他的精神実験」と銘打たれている。西成教授が強調するのは、他のドライバーへの思いやりだ。目先のプラスばかりを追わず、長期的視野を持って。情けは人のためならず。損して得とれ、とも。頭ではわかっていても、なかなか実行できないところが凡夫の悲しさか▼きのう、Uターンラッシュに巻き込まれた方も多いに違いない。きょうも混雑が続くだろう。渋滞のストレスを長時間受け続けるつらさはいかばかりか。どこにも出かけずじっとしていた身には、お気持ちを拝察することしかできない▼大型連休が終わる。朝の駅の雑踏が戻ってくる。遅い流れにいら立って、ともすると前に出たがるのを自戒することにする。急がば回れ、だ。

2014・5・6

人間が人間たる由縁は「他を思いやる心」を持っていること。現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、文明を発展させて 今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合せていたからだという。そんな「心やさしき」縄文人は 世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。激しい競争社会が展開させる現在 今一度 この人類史の現実をみつめ直す必要がある。

ややもすれば 自己責任を強要する現代社会への警鐘 こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

2014.5.6. from Kobe Mutsu Nakanishi

心優しき縄文人 縄文帰りの勧め



**約1万年前に始まる縄文時代 素晴らしい縄文文化が花開く
少なくとも約8000年の長きにわたって
戦さもなく存続した平和で豊かな暮らしの時代があり、
豊かな森や海に恵まれた世界に類のない長い平和な時代が続いた
この縄文文化を支えた縄文人たちの心に触れてみたいと。**

人間が人間たる由縁は「他を思いやる心」を持っていること。現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、文明を発展させて 今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合せていたからだという。そんな「心やさしき」縄文人は 世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。激しい競争社会が展開させる現在 今一度 この人類史の現実をみつめ直す必要がある。ややもすれば 自己責任を強要する現代社会への警鐘 こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

2014.5.6. from Kobe Mutsu Nakanishi

三内丸山縄文発信の会 縄文塾 あおもり縄文まほろば展 案内 岡田康博氏 大阪歴史博物館 2007.2.16.





新野(1)遺跡 - 埴原塚出土物 -

この遺跡は縄文時代中期の遺跡で、埴原塚の南側に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。



新野(1)遺跡 - 新野川沿岸部 -

この遺跡は、新野川の沿岸部に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。



新野(1)遺跡 - 埴原塚出土物 -

この遺跡は、埴原塚の南側に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。



新野(1)遺跡 - 埴原塚出土物 -

この遺跡は、埴原塚の南側に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。



新野(1)遺跡 - 埴原塚出土物 -

この遺跡は、埴原塚の南側に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。



新野(1)遺跡 - 埴原塚出土物 -

この遺跡は、埴原塚の南側に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。



新野(1)遺跡 - 埴原塚出土物 -

この遺跡は、埴原塚の南側に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。



新野(1)遺跡 - 埴原塚出土物 -

この遺跡は、埴原塚の南側に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。

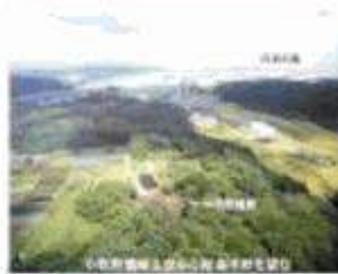


新野(1)遺跡 - 埴原塚出土物 -

この遺跡は、埴原塚の南側に位置しています。出土した土器は、縄文時代中期の典型的な土器で、土質が硬く、表面が滑らかです。また、土器の形状も、縄文時代中期の特徴的な形状をしています。



新野(1)遺跡

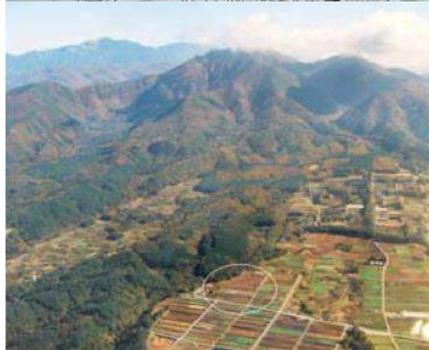


縄文の環状集落

縄文の森と水場がある見晴らしの良い尾根筋の丘

縄文人は広場を中心に輪になって住んでいた
広場には一緒に暮らす祖先たちの墓

縄文人の暮らしの中 いたるところに円環・渦巻き文様がある
その代表格 縄文土器・ストーン サークル・環状集落等々



環状に広場を取り囲む聖穴住居群 約180の聖穴住居が委縮された

長野県梅ノ木遺跡

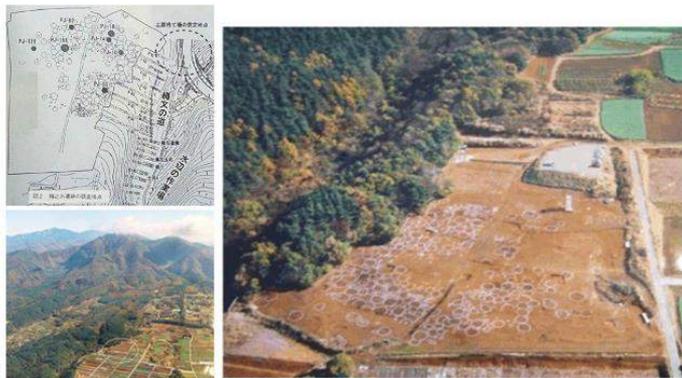


岩手県西田遺跡

縄文の環状集落

縄文の森と水場がある見晴らしの良い尾根筋の丘

縄文人は広場を中心に輪になって住んでいた
広場には一緒に暮らす祖先たちの墓



環状に広場を取り囲む竪穴住居群 約180の竪穴住居が密集された
長野県篠ノ木遺跡

縄文の環状列石・ストーン サークル

集落と離れた場所に環状に並べられた石の環 その中央には日時計型石組が建っている
これは祭りの場所？ 墓？ 数々の思いが頭をめぐる



秋田 大湯環状列石



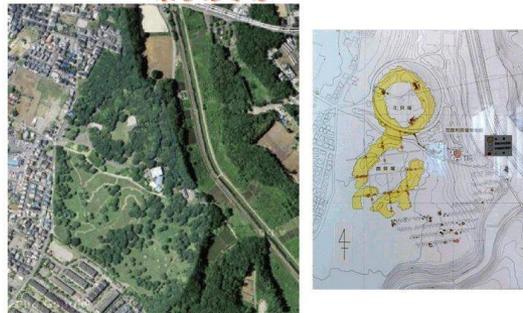
縄文の代表環状列石 小松野遺跡 奥州

北海道の雑木林の中の周堤墓



北海道 千歳市 キウス周堤墓

環状貝塚



日本最大の大型貝塚 加曾利貝塚の全景 縄文中期～後期 千歳市宮原区加曾利

雪深い北陸に出現した環状木柱列



縄文の巨大木柱列「ウッド サークル」
(環状柱での様式復元)
金沢市千カモリ遺跡 2004.4.7.

縄文集落 御所野遺跡 環状集落・配石遺構・馬蹄形盛土



御所野遺跡 環状集落・配石遺構・馬蹄型盛土遺構

縄文集落 三内丸山遺跡 墓の道・配石遺構・盛土・六本柱

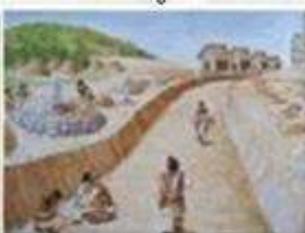


三内丸山遺跡 墓の道

縄文人の精神世界と深くかかわった「縄文の渦巻き・同心円紋」文化



図説「縄文のビーナス」2003.12.8 茨城県立歴史館



縄文人の精神世界と深くかかわった「縄文の渦巻き・同心円紋」文化





国宝「縄文のビーナス」2003.12.5. 茨城県考古館

縄文人の精神世界と深くかかわった「縄文の渦巻き・同心円紋」文化



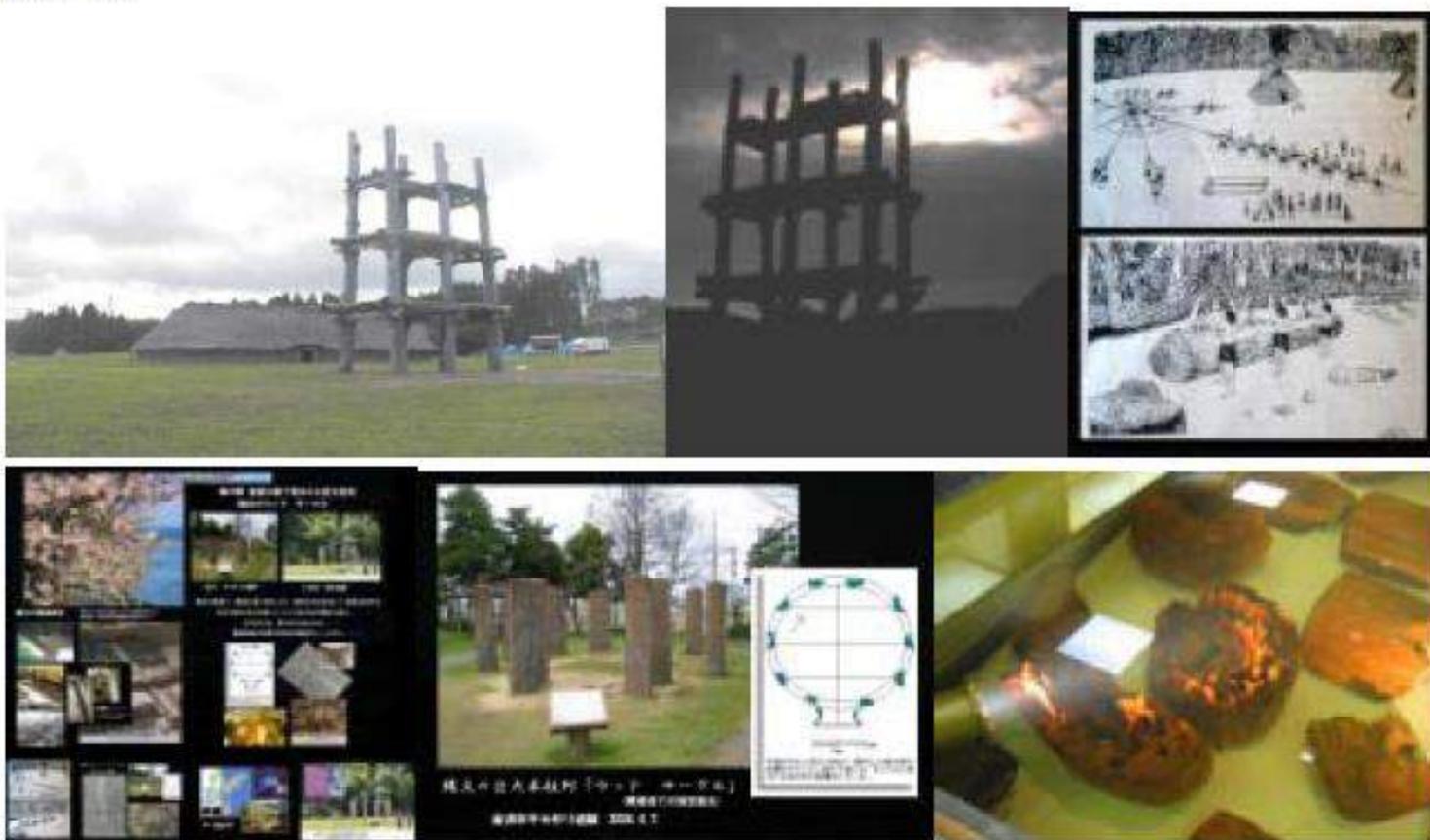
栗・ブナなど落葉広葉樹の森は
豊富な木の實をみゆらせ
「縄文の森の文化」を育てた

今 日本に縄文時代のような巨樹 栗林があるのだろうか...???

今から 5000 年前 日本列島の森には栗の巨樹が林をつくり、豊かな縄文文化を作った。

青森三内丸山縄文遺跡にはあの巨大な栗の 6 本柱が聳え、北陸では栗の巨木のウッドサークルが建っていたという。そんな栗の巨樹の群れ、今の里山で見る栗林では想像もつかない。

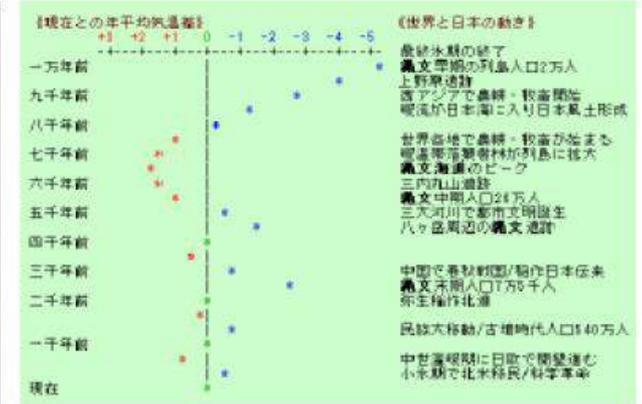
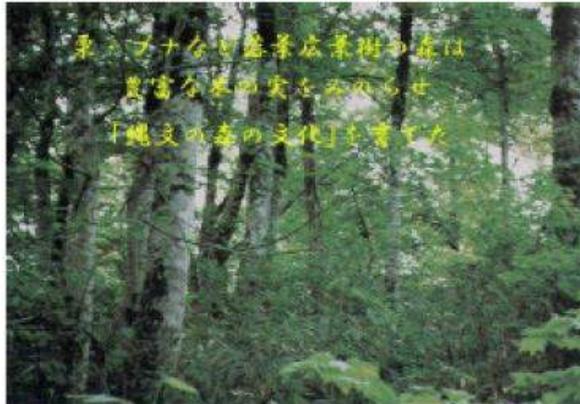
山内丸山遺跡の 6 本柱は日本にそんな巨木がなく、モニュメントとして 栗の巨木をロシアから輸入して建てたという。



【栗林が育んだ縄文文化】青森 三内丸山遺跡 6 本柱（上）と北陸のウッドサークル

縄文文化は森の文化

森が育んだ縄文の文化 広葉樹林の豊かな森が、その後の冷涼化の中で 縄文の暮らしが大きく変化し、集落が分散してゆく
そんな中で 縄文のストーンサークルなど円環遺構が数多く現れてくる



北海道 森町 今では貴重な巨樹の栗林 天然記念物 茅部の栗林



北海道 駒ヶ岳山麓 森町の北海道天然記念物「茅部の栗林」 2005. 4. 24.

今から 5000 年前 日本列島の森には栗の巨樹が林をつくり、豊かな縄文文化を作った。

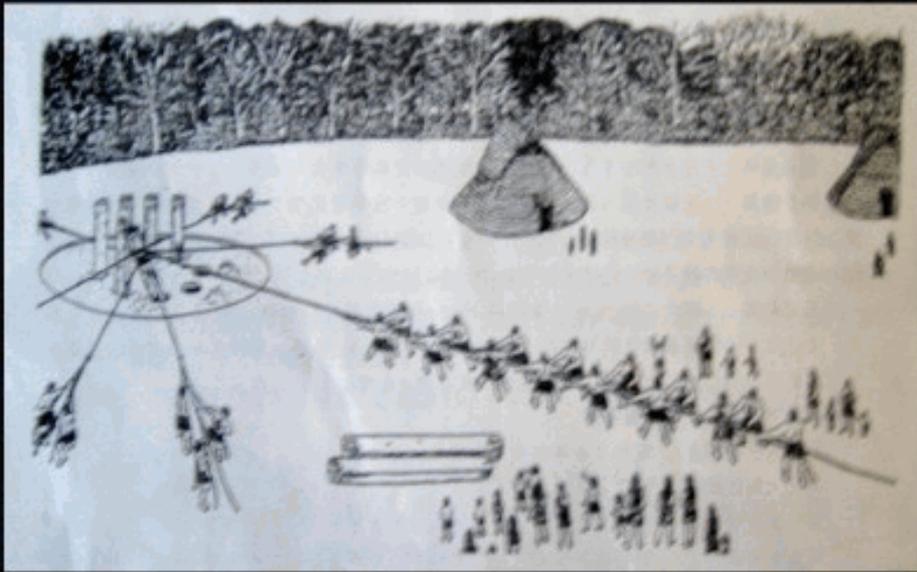
青森三内丸山縄文遺跡にはあの巨大な栗の 6 本柱が聳え、北陸では栗の巨木のウツドサークルが建っていたという。そんな栗の巨樹の群れ、今の里山で見る栗林では想像もつかない。



栗の巨木群 北海道 駒ヶ岳山麓 森町の北海道天然記念物「茅部の栗林」 2005. 4. 24.
幹周 (cm) が 480、471、460、415、365、335、・・・、その他 3m を越える栗の大木が全部で 147 本あるといい
雪を戴いた駒ヶ岳 噴火湾の海を背景に林立していました



縄文人が生活の糧・加工に使った巨木の栗林
北海道森に今もそんな栗の巨樹が残っていました



栗の巨木

縄文の環状集落

縄文の森と水場がある見晴らしの良い尾根筋の丘

縄文人は広場を中心に輪になって住んでいた
広場には一緒に暮らす祖先たちの墓

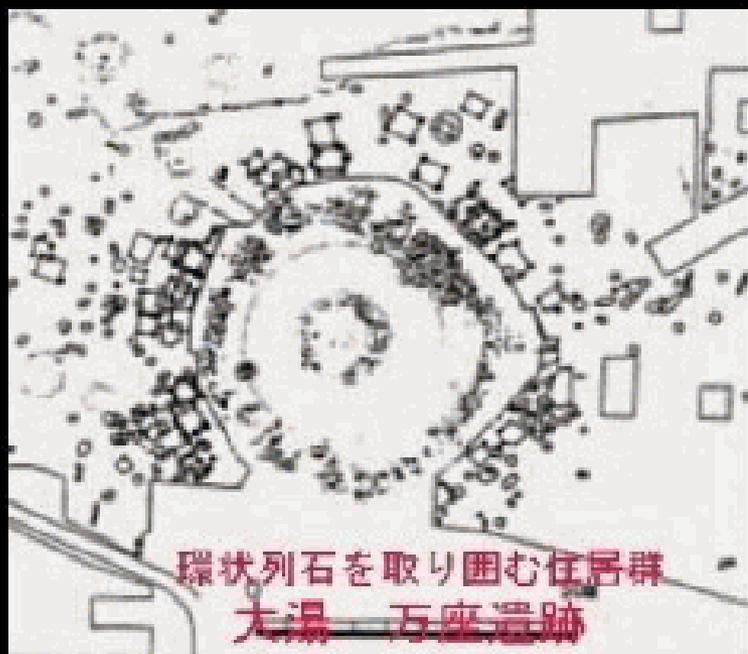


環状に広場を取り囲む聖穴住居群 約180の聖穴住居が密集された
長野県梅ノ木遺跡



岩手県西田遺跡

秋田 大湯ストーン サークル 満座遺跡

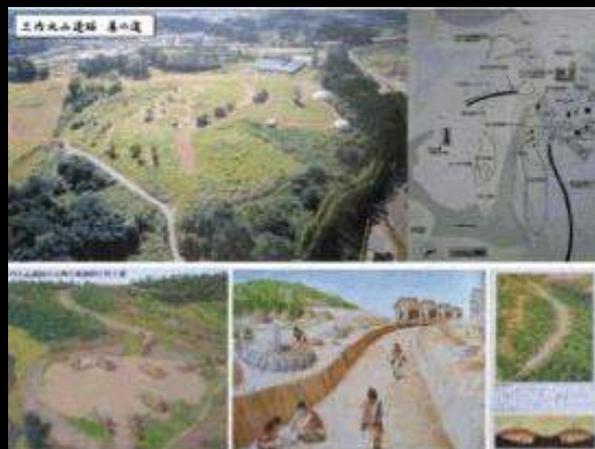


「墓の道」に並ぶ「ストーンサークル・環状配石墓」 青森 三内丸山遺跡



日時計状配石

「日時計状組石」のところから今は林の中を南北に伸びる「墓の道」
山内丸山遺跡のストーンサークル・環状配石墓は林の中のこの道の傍に
並んで見つかりました。



縄文の心を映すストーンサークル

木柱列と配石遺構の両方が一緒に見つかった糸魚川市寺地遺跡

糸魚川市 寺地遺跡 【1】 木柱列と配石遺構が一緒に発見された縄文遺跡 3000年前 縄文晩期

東西約150メートル、南北約650メートルの範囲内にある縄文時代の中期から晩期の遺跡で、ヒスイの玉造をしたとされる「硬玉工房跡」(縄文中期)や祭祀の形態がうかがえる縄文晩期配石遺構や巨木柱が検出され、現在は史跡遺跡公園として 整備されている。





配石遺構

寺地遺跡 縄文期
Temp Site / First Area

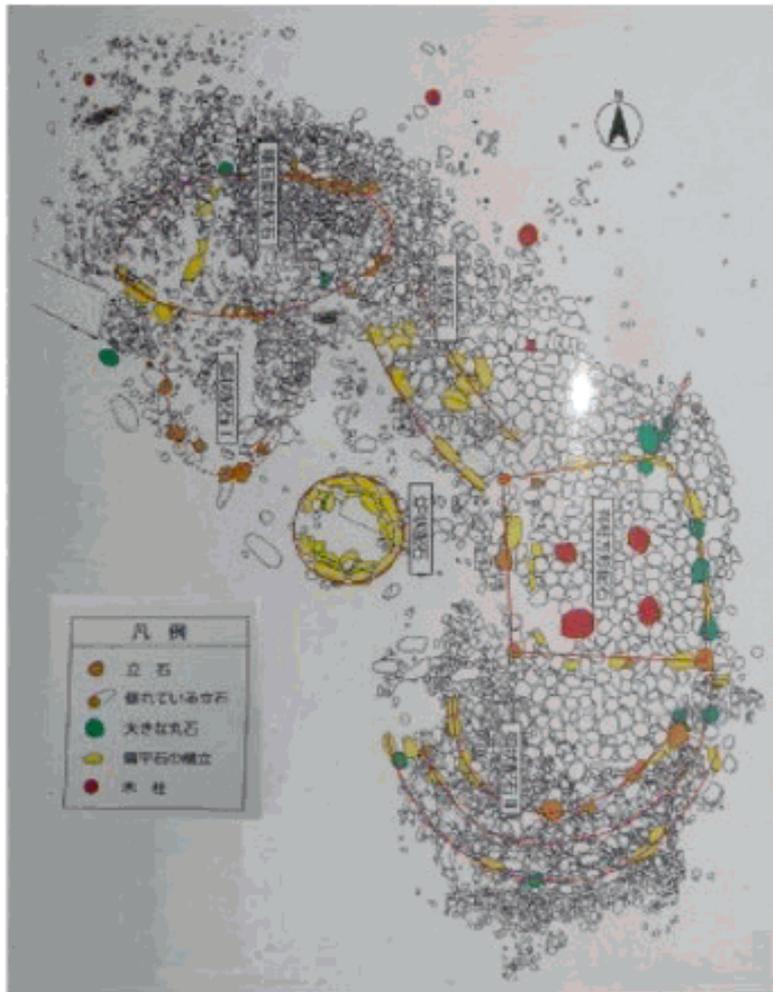
縄文人は、自然界にあるさまざまなものに対して祈っていたと考えられます。祈りの対象は山であったり、大きな岩であったりもしました。山の麓から祈ってくる動物にも、祈りがこめられたものと考えられます。それらの残る場所には、石や木を使った特別な構築物（記念物）が置られました。

ここでは、1970（昭和45）年に発見された、糸魚川市寺地遺跡の遺構を再現しました。円形石を配列し、直径80cmもの木柱を4本立てた、特別な祈りの場です。動物の骨が、現代の縄文時代の祭祀にあり、祈りが行なわれます。

祈りの場

- 立石
- 傾いている石
- 大きな丸石
- 扁平石の積立
- 木柱
- 敷石土層

縄文遺跡 糸魚川市 寺地遺跡、縄文期、縄文1期



糸魚川市寺地遺跡

縄文中期 翡翠工房 竪穴住居群と出土翡翠原石

配石遺構出土品 御物石器も出土

ストーン サークルと木柱列 その両方が一緒に立ち並ぶ縄文遺跡が、糸魚川 寺地遺跡にあるのをみつけました。
 縄文のストーンサークルの東日本・ウッドサークルの北陸・御柱の諏訪・信州の文化圏の重なる縄文人交流の拠点
 姫川に近い海を臨む糸魚川市青海の高台 縄文中期から続く翡翠の加工工房集落で
 そのジオラマが新潟県長岡市の県立歴史博物館にあり、当時の縄文の村・円環遺構を再現している



糸魚川市 寺地遺跡 配石遺構 復元ジオラマ と遺構配石と木柱列の配置図

東日本には数々の縄文の円環遺構が見つかった。しかし、西日本・関西では まだ発見されていない

関西にもストーンサークルはあるのだろうか・・・

西日本の縄文人は「縄文人の絆・心の象徴」の象徴を何に求め、どこで 祭りをしたのだろうか・・・

神奈備山と磐座 この流れが 西日本の中心か・・・

弥生の時代になると放棄されてしまうが、神奈備山と自然信仰・御柱そして各地に残る磐座は 時代を超えて受け継がれ、日本人の心の象徴として続いていくのではないか・・・

6. まとめ 縄文のストーン サークルとは・・・ (Mutsu Nakanishi の私見 根拠はありません)

縄文の円環遺構は「縄文人の絆・心の象徴」 環状集落・ストーンサークル・ウッドサークル・周堤墓

ストーン サークルは共同基地の性格が強く 同じ意識集団の祭祀の場でもある

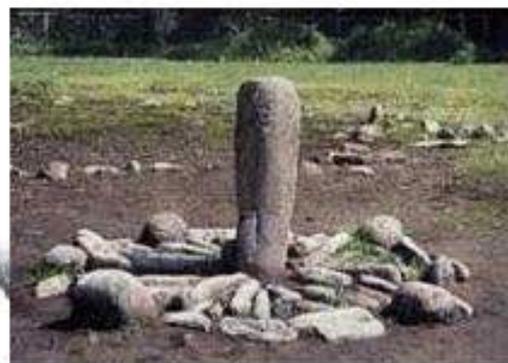
再生・命の絆 それを天空・自然に求める縄文

ストーンサークルと日時計状配石・木柱列と御柱 それらは 生者と死者 集団 まだ見ぬ異界をつなぐ象徴

縄文人はそれらを通じて会話しながら 縄文の社会・文化をはぐくんできたのではないか

縄文の心を映すストーンサークル

- 縄文の円環を訪ねて -



鹿角 大湯ストーンサークル



青森 小牧野ストーンサークル

みなさんには どのように 映りますでしょうか

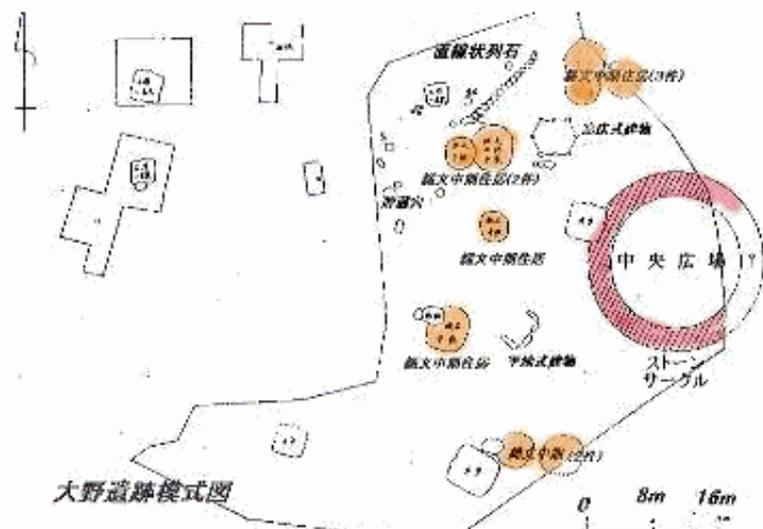
はじめに ストーンストーンサークルの始まり

大野遺跡（長野県大桑村）の環状配石遺構（縄文中期 4千数百年前）

発見された中で一番古いストーンサークル

大桑村長野の大野遺跡は、縄文時代中期後葉（約4千年前）の環状配石遺構（ストーンサークル）で、竪穴式住居跡のほか、直径20mほどの環状配石遺構が、ほぼ完全な形で発見された。ストーンサークルは、祭祀の場や墓地などと考えられている。

日本でこれまで発見されたものでは、最も古く、貴重な考古資料といわれている。



村の中にあるストーンサークル 大野遺跡 縄文中期

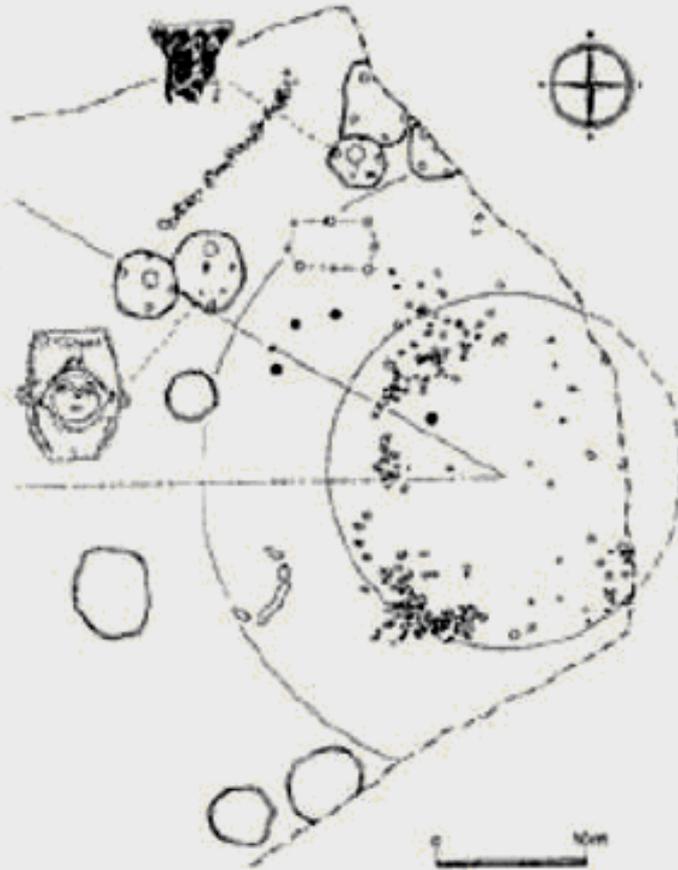
ストーンサークルの変遷 集落内から大規模な集落外のストーンサークルへ

1. 集落内から 大規模な集落外ストーンサークルへ



大湯遺跡・万座環状列石

縄文後期 4000年～3500年前



大野遺跡・集落内環状列石

← 縄文中期 後葉 4000年前



西田遺跡・環状集落

← 縄文中期中葉 4500年前

進化する縄文のストーン サークル

2. 進化する縄文のストーン サークル 石の数・石組みの複雑化・大規模な土木工事



三内丸山遺跡・青森市(左上)、大塚環状列石・秋田県能代市(右上)、豊前市萩原町(左下)、宮ノ木遺跡・北海道森町(右下)、伊勢堂土遺跡・北海道市(右下)

『永遠の未完成』 進化するストーンサークル

初期のストーンサークルは、石が少なくまばらであるが、存続期間が長いほど、より石が多くなり複雑な形へと変化していった可能性がある。

『Eternal Incompletion』 Evolution of Stone Circles

Although a stone circle was composed of just a few stones in the early times, there is a possibility that a stone circle

which existed longer had a more complicated shape.

3. ストーンサークルの意味を初期の集落内ストーンサークルから考える

http://www.interq.or.jp/www1/chungush/kiso/iseki.files/iseki_1.htm より

大野遺跡（長野県大桑村）の環状配石遺構

（縄文中期 4千数百年前）

環状列石遺構は東日本を中心にみつっていますが、縄文時代後期のものが多く、同心円状に存在する住居跡と一緒に見つかる例は少ないことから、貴重な例とされています。また、遺跡の北側には直線状列石がみつっていますが、これは集落を区画するような形になっていますが何を意味するかわかりません。

特徴はストーンサークルに囲まれた何もない部分 中央広場 は昔の集落のお祭り広場ではないか、その何もない場所を取り巻いて更にその外側に住居跡、高床式、地面に直接建った高床倉庫、平地式倉庫、その外側に住居跡が点々としているまわっている、

環状列石を中心に同心円として真ん中には広場、環状列石、建物さらにその外側に竪穴の住居跡がまわるという同心円。新聞等では日本最古と報道していますが、年代的には日本でみついているストーンサークルでは、一番古いものだということです。住居跡とセットになってみついているのは例が無く非常に貴重な遺跡。

ストーンサークルには次のような3つの性格がかんがえられており、ストーンサークルを解明していく上でのよい研究材料になる。

1. 祭祀、お祭りの中央の広場でそれを囲むように石をもってきている
2. 石の下に、お墓があり、墓石として石を置き、結果としてまるく輪になった
3. 中央広場は縄文時代当時においては、非常に神聖な場所で人が住む住居跡のある俗世間、中央の聖なる場所と俗世間を区画する意図がある。所々切れた場所が中央広場へ出入りする入り口ではなかったが

このような3つの性格が考えられ、村の宝と誇りに思う。

http://www.interq.or.jp/www1/chungush/kiso/iseki.files/iseki_1.htm より

縄文の心を映す円環遺構

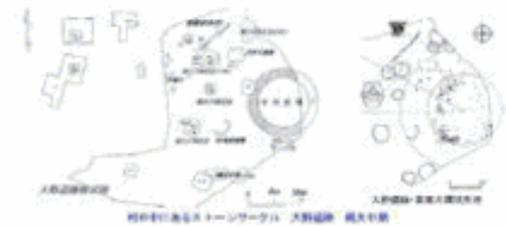
ストーンサークルのほかにも日本各地に数多くの縄文の円環遺構が残っている



垣の島遺跡 馬蹄型盛土



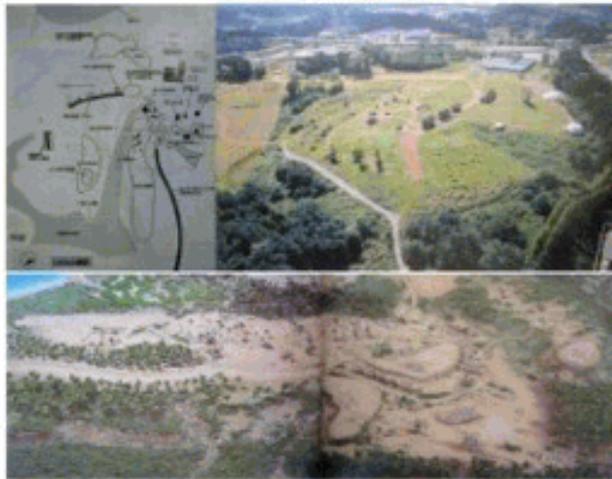
縄文の環状集落 梅ノ木遺跡



集落内環状列石 大野遺跡

日本人のこころのふるさと 縄文時代の暮らし 湖の中に稲穂といっしょに暮らす縄文の暮らし

寺森 三内丸山縄文遺跡

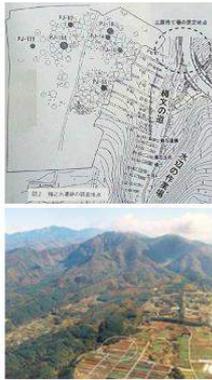


三内丸山遺跡 墓の道

縄文の環状集落

縄文の森と水場がある見晴らしの良い尾根筋の丘

縄文人は広場を中心に輪になって住んでいた
広場には一緒に暮らす祖先たちの墓



環状に広場を取り囲む壁穴住居群 約100の壁穴住居が密集された
長野県箕ノ木遺跡

縄文の環状列石・ストーン サークル

集落と離れた場所に環状に並べられた石の環 その中央には日時計型石組が建っている
これは祭りの場所？ 墓？ 数々の思いが頭をめぐる



秋田 大湯環状列石



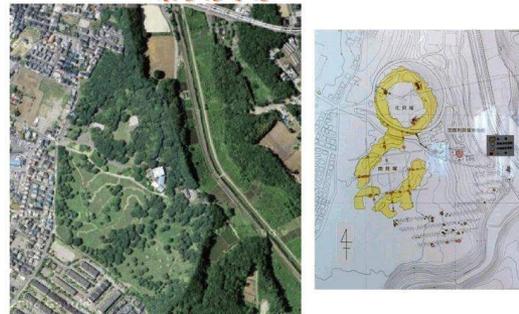
縄文の代表環状列石 小松野遺跡 奥州市

北海道の雑木林の中の周堤墓



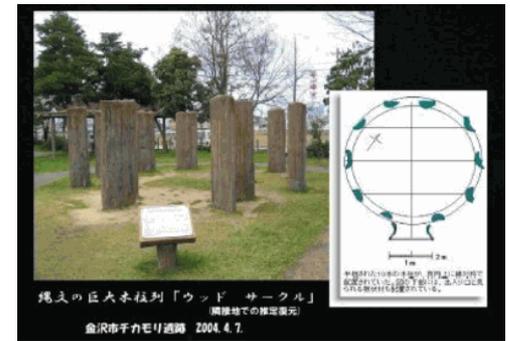
北海道 千歳市 キウス周堤墓

環状貝塚



日本最大の大型貝塚 加曾利貝塚の全景 縄文中期～後期 千歳市宮原区加曾利

雪深い北陸に出現した環状木柱列



縄文の巨大木柱列「ウッド サークル」
(縄跡での掘出復元)
金沢市千カモリ遺跡 2004.4.7.

縄文集落 御所野遺跡 環状集落・配石遺構・馬蹄形盛土



御所野遺跡 環状集落・配石遺構・馬蹄型盛土遺構

縄文集落 三内丸山遺跡 墓の道・配石遺構・盛土・六本柱



三内丸山遺跡 墓の道

縄文の環状集落

縄文の森と水場がある見晴らしの良い尾根筋の丘

縄文人は広場を中心に輪になって住んでいた
広場には一緒に暮らす祖先たちの墓



環状に広場を取り囲む壑穴住居群 約180の壑穴住居が安堵された

縄文の環状列石・ストーン サークル

集落と離れた場所に環状に並べられた石の環 その中央には日時計型石組が建っている
 これは祭りの場所？ 墓？ 数々の思いが頭をめぐる

縄文の代表環状列石 小牧野遺跡 青森市



壺棺土器
 外と内の環の
 間3ヶ所から
 出土した

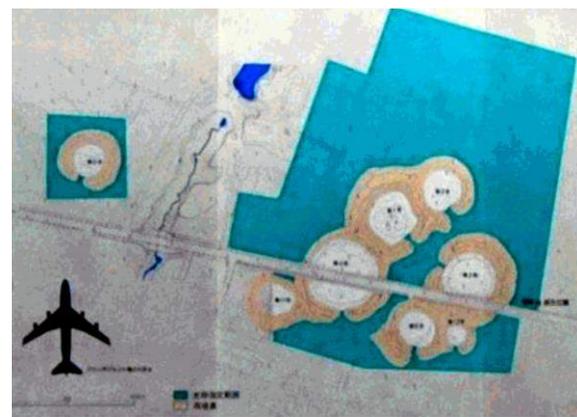


ストーンサークルに近接する部より、新たに土坑群・貯蔵穴・堅穴住居跡が見つかり、祭祀の場としての全貌がはっきりと見えてくる

北海道の雑木林の中の周堤墓



約 3000 年前 縄文後期の共同墓 キウス用堤墓 2007. 4. 26.



千歳の町から東へ 夕張へ は広大な馬追丘陵地が広がるキウス用堤墓周辺 2005. 4. 26.



加曾利 南貝塚

大型環状貝塚 千葉市加曾利貝塚

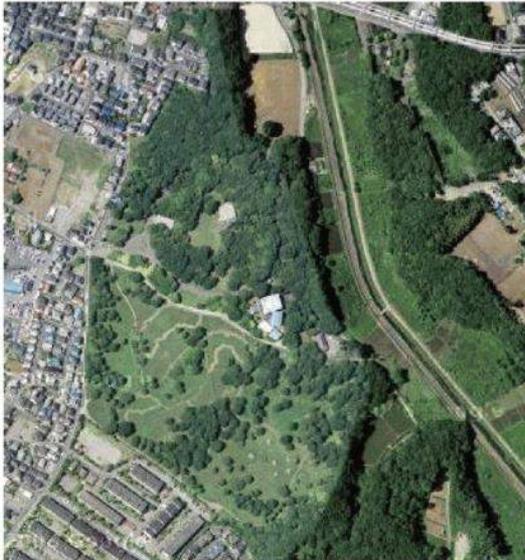
大型貝塚と住居址群

かつて、貝塚はすべて日常のゴミ捨て場であるから、大型貝塚の形は、その内側にある築墓の形を示すものと考えられていました。ところが、南貝塚の周辺部の調査によって、貝塚の内側よりもむしろ外側の周辺に多数の住居址が広がっていることが明らかとなりました。

この大型貝塚が、どのようにしてできたのか、まだ多くの謎を残していますが、貝塚を築いた人びとの居住の場や周辺の築墓との関係などにより、大型貝塚の特殊な機能や存在意義がようやく解明されつつあります。

（凡例）
 ● 築墓
 ○ 住居址
 ■ 貝塚

4階ブレイクによる断面と
 遺構の平面図
 (11000 - 8000)



日本最大の大型貝塚 加曾利貝塚の全景 縄文中期～後期 千葉市若葉区加曾利



加曾利 北貝塚

雪深い北陸に出現した環状木柱列

**森の国 越・能登の国で育まれた巨大柱列
縄文のウッド サークル**



金沢 千カモリ遺跡 小矢部 桜町遺跡

縄文の集落で 森度も建て替えられ、東南の方向を向いて 集落を見守る
巨大な森の木を半割りにした日本の柱が環状に建ち、
その中では、祭りが行われたか・・・
諏訪御社の菅笠や神社の鳥居の丸柱かも・・・

縄文のウッド サークルと大森のイタノ木の神が産出した
紙管 直筒縄文遺跡
石川県新聞社 2004.4.7.

環状木柱列
縄文時代の集落跡として知られる。約10本の巨大な木柱が、直径約10メートルの円形に並び、その中心には土壇や土坑が確認されている。また、土壇の周囲には、土壇の中心と見られる部分にも確認されている。

復元 桜町遺跡環状木柱列
(石川県新聞社での復元写真) 2004.4.7.

縄文のストーン サークル
金沢 千カモリ遺跡



縄文の巨大木柱列「ウッド サークル」
(隣接地での推定復元)
金沢市千カモリ遺跡 2004.4.7.

半柱径10本の木柱が、直径10メートルの円形に並び、その中心には土壇や土坑が確認されている。また、土壇の周囲には、土壇の中心と見られる部分にも確認されている。

日本人のこころのふるさと 戦・けがれを知らず 村の中に祖先といっしょに暮らす縄文の集落

青森 三内丸山縄文遺跡



三内丸山遺跡 全景



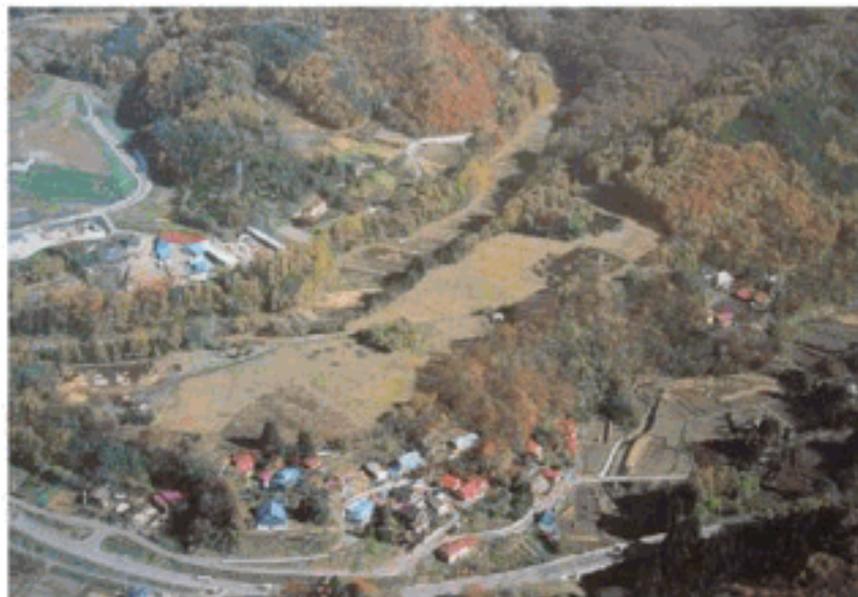
日時計型配石が立ち並ぶ墓の道



村の道には
小型のストーンサークル

日本人のこころのふるさと 戦・けがれを知らず 村の中に祖先といっしょに暮らす縄文の集落

岩手県御所野縄文遺跡

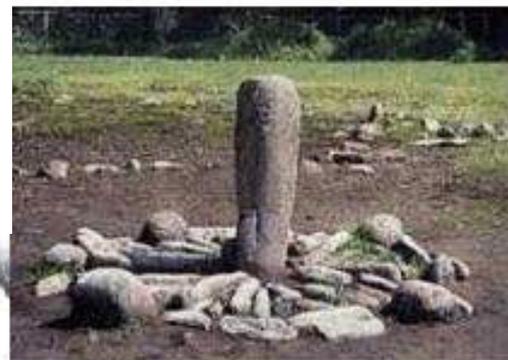


配石遺構の1例 径2mほどの規模で環状の緑石をめぐるし、内側にも石が置かれています。ほかにも中央に大きな石、平たい石を置くものがみられます。

縄文の心を映すストーンサークル

- 縄文の円環を訪ねて -

日本各地に点在する縄文の心を映す円環遺構を訪ねる



鹿角 大湯ストーンサークル



青森 小牧野ストーンサークル

円環遺構を有する縄文遺跡 縄文の心を映す円環遺構

みなさんには どのように 映るでしょうか……

日本各地に点在する縄文の心を映す円環遺構を訪ねる

縄文の環状集落

縄文の森と水場がある見晴らしの良い尾根筋の丘

縄文人は広場を中心に輪になって住んでいた
広場には一緒に暮らす祖先たちの墓



楕円に広場を取り囲む環状集落跡 約750の環状住基が連続された
長野県駒ヶ野遺跡

縄文の環状列石・ストーンサークル

集落と離れた場所に環状に並べられた石の環 その中央には時計型石組が建っている
これは祭りの場所？ 墓？ 数々の思いが頭をめぐる



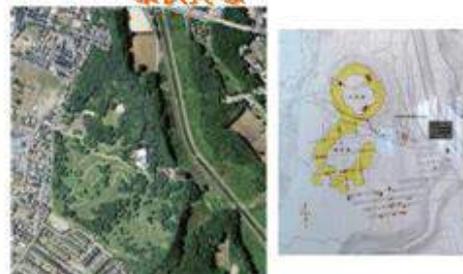
秋田 大湯環状列石
環状目録



北海道の雑木林の中の周堤墓



北海道 千歳市 キウス周堤墓



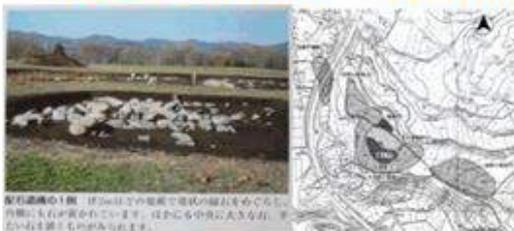
日本最大の穴形周堤 宮野町周堤の全景 縄文中期一環跡 2008年撮影

雪深い北陸に出現した環状木柱列



縄文の巨大木柱列「ウッド・サークル」
福井県下谷原遺跡
雪深い北陸の縄文遺跡 2014.4.1

縄文集落 御所野遺跡 環状集落・配石遺構 馬蹄形盛土



御所野遺跡 環状集落・配石遺構・馬蹄型盛土遺構



縄文集落 三内丸山遺跡 墓の道 配石遺構 盛土 六本柱



三内丸山遺跡 墓の道

縄文の心を映す円環遺構を訪ねる <1> 環状集落

広場・中央基地を中心に住居が取り囲む 縄文の環状集落



1. 環状集落	
岩手県西田遺跡	<p>中期中葉 約 4500 年前の環状集落遺跡</p> <p>直径 150 メートルを優に超える本遺跡の環状集落は中央広場を囲むように大小多数の掘立柱建物群、その外周を住居群、さらにその外周を貯蔵穴群が 2 重・3 重にめぐる重環状構造をみせており、広場からは列状に分布する少数の墓を中心に放射状に配列された 200 基近い土葬墓群が発掘されている。</p>
風張遺跡	<p>後期の環状集落跡</p> <p>風張遺跡は、中央の広場を中心に墓や建物が同心円状に配置された環状集落。に配置された環状集落です。</p> <p>ここで、有名な胸の前で手を組んだ合掌している合掌 土偶が発見されている。</p>
大清水上遺跡	<p>前期後葉の大集落</p> <p>大清水上遺跡は、JR 東北本線水沢駅から西へ約 20km、胆沢川によって今から約 15~20 万年前に形成された河 岸段丘の高位段丘に位置住居群が『広場』（遺構空白地帯）を中心として求心的かつ整然と配置されている。</p> <p>集落を構成する住居のほとんどが大形住居であること、かつ、墓域や貯蔵穴群といった縄文集落に伴うことが予想される墓域や大規模な貯蔵穴群などが検出されていないなどの特徴があり、縄文時代前期後葉の集落の一般的姿なのか、あるいは本遺跡に固有の姿であるのかなどを今後、総合的に検討し、理解していかなければならないと考えられている。</p>
長野県梅ノ木遺跡	<p>中期 5000 年前の遺跡 南アルプス・釜無川を見晴らす茅ヶ岳の山麓の台地 100 軒を超える竪穴住居が広場を囲んで そっくりそのまま見つかった。谷への水場へ向かう道・作業場も。 縄文のモデル村が具体的な姿をあらわした。</p>

広場・中央墓地を中心に住居が取り囲む 縄文の環状集落 [1] 西田遺跡など

西田遺跡 岩手県紫波町 中期中葉 約4500年前の環状集落遺跡

直径150メートルを優に超える本遺跡の環状集落は中央広場を囲むように大小多数の掘立柱建物群、その外周を住居群、さらにその外周を貯蔵穴群が2重・3重にめぐり重環状構造をみせており、広場からは列状に分布する少数の墓を中心に放射状に配列された200基近い土壌墓群が発掘されている。

風張遺跡 八戸市（縄文時代後期）

風張遺跡は、中央の広場を中心に墓や建物が同心円状に配置された環状集落です。

ここで、有名な胸の前で手を組んだ合掌している合掌土偶が発見されている。

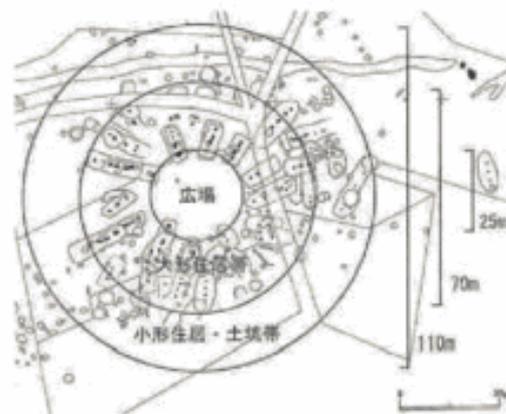


西田遺跡・環状集落

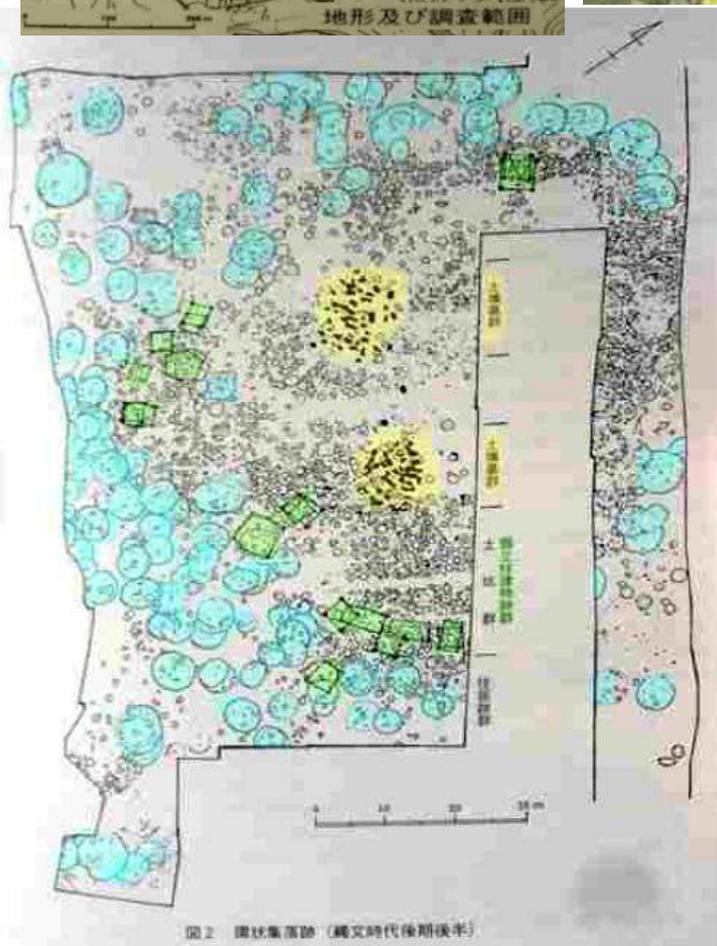
大清水上遺跡 岩手県胆沢町

大清水上遺跡は、JR東北本線水沢駅から西へ約20km、胆沢川によって今から約15~20万年前に形成された河岸段丘の高位段丘（上野原面）に位置する縄文時代前期後葉に営まれた大集落で、住居群が『広場』（遺構空白地帯）を中心として求心的かつ整然と配置されている。

集落を構成する住居のほとんどが大形住居であること、かつ、墓域や貯蔵穴群といった縄文集落に伴うことが予想される墓域や大規模な貯蔵穴群などが検出されていないなどの特徴があり、縄文時代前期後葉の集落の一般的姿なのか、あるいは本遺跡に固有の姿であるのかなどを今後、総合的に検討し、理解していかなければならないと考えられている。



広場を中心に環状に取り囲んで住居が立ち並ぶ縄文後期の集落跡 国宝合掌土偶出土の風張遺跡



風張遺跡 縄文後期の環状集落配置

きつい切通しを登りきると丘陵地の中段視界が開け、長生園の建物と風張遺跡の案内板がありました

縄文文化を代表する是川遺跡・風張遺跡のある八戸是川の里

堀田遺跡

中居遺跡

風張遺跡(長生園)

種市岳

(八戸市街地)

(太平洋)



縄文文化を代表する是川遺跡・風張遺跡を訪ねる

- 縄文漆の素晴らしい文化を咲かせた縄文晩期 是川中居遺跡
- 墓域のある広場を環状に取囲む住居群 縄文後期の環状集落 風張遺跡



八戸 是川遺跡・風張遺跡全景
2008. 10. 31.



八戸新井田川沿いの丘の上にある風張遺跡
対岸の岸には縄文漆遺物の大量出土で有名な中土居遺跡がある八戸是川の里

縄文の環状集落 [2] 茅ヶ岳山麓の梅ノ木環状集落遺跡



梅ノ木縄文環状集落跡遺跡 環状に広場を取り囲む壑穴住居群 約180の壑穴住居が発掘された
北杜市埋蔵文化財センターで 写真をコピーさせてもらった 2006.10.10.



壑穴住居跡



西の側へ築ける縄文の溝



この地に無い平石がしかかれた水場

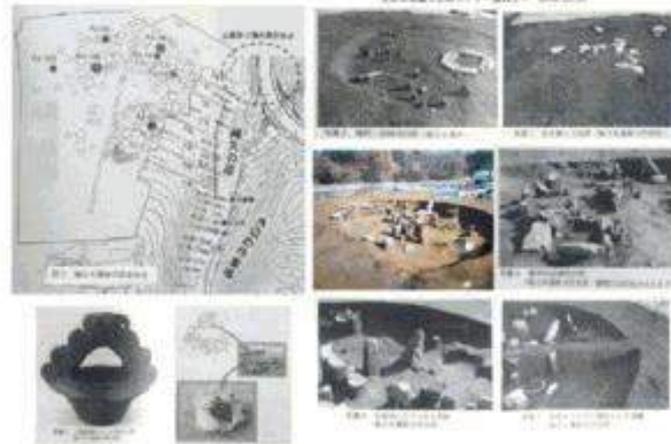


水辺の作業場 兼石土坑

縄文の環状集落がぞくぞくとそのまゝ出土 山梨県 北杜市 梅ノ木縄文遺跡



梅ノ木縄文環状集落跡遺跡 遺跡の概要と発掘の様子



縄文の心を映す円環遺構を訪ねる <2> 環状貝塚・馬蹄形盛土



日本最大の大型貝塚 加曾利貝塚の全景 縄文中期～後期 千葉市



千葉 加曾利大型貝塚

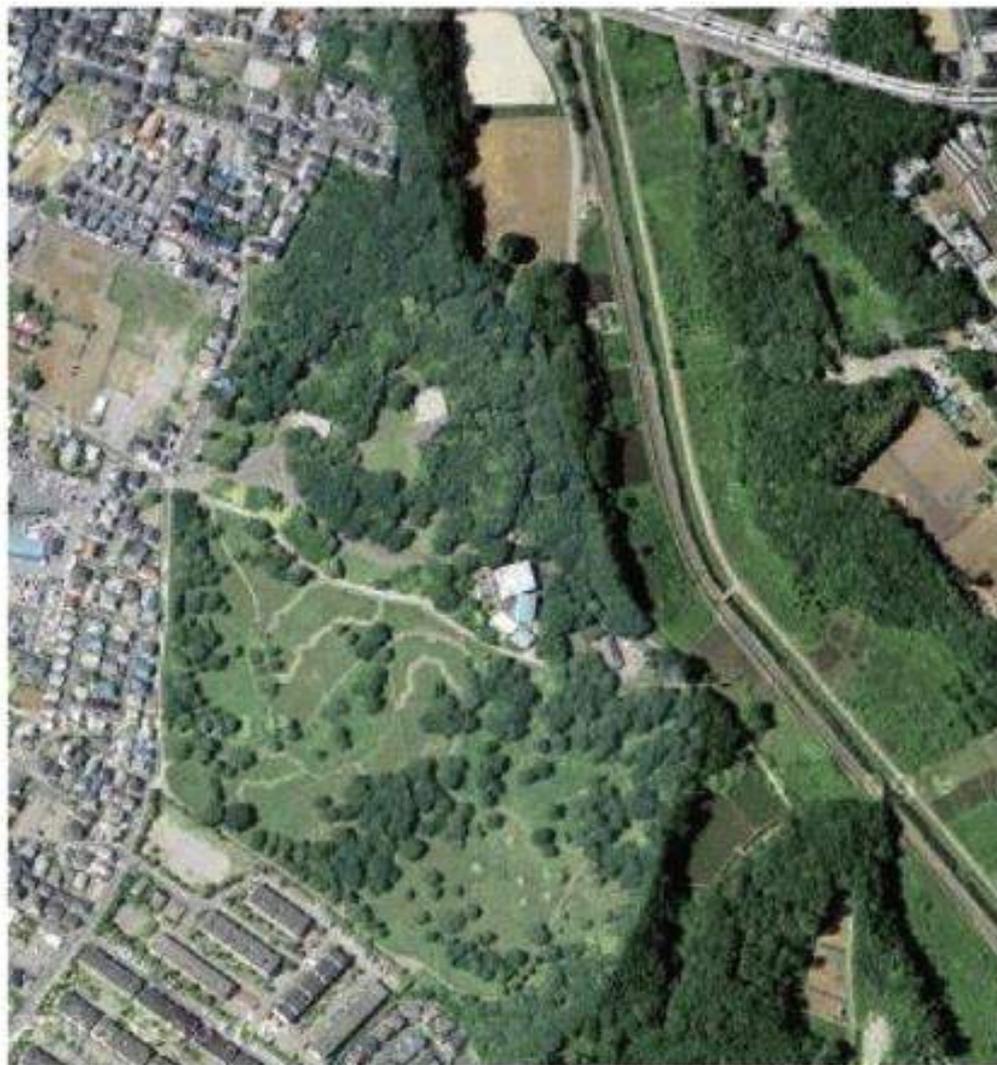


垣の島遺跡 馬蹄型盛土

2. 環状貝塚・馬蹄形盛土

千葉県 加曾利貝塚	部川上流の台地上にあり、縄文中期の直径約 130m の北貝塚と縄文後期の約 170m の南貝塚から成る日本最大の貝塚。単なるゴミ捨て場でなく、周縁の集落の共同作業場(貝の干し場等)との考えがある。貝塚から貝を煮詰めた痕跡なども出ている。 加曾利 E 式土器・B 式土器の標式遺跡としても名高い。
岩手県 御所野遺跡	縄文中期後半 4500 年前の大規模集落。 中央部広場に二つの隣接した配石遺構と土坑墓が中心に向かって環状に取り囲む。配石遺構はところどころに土坑墓の上に造られている。この周囲に 3 つの住居群(掘立柱住居群・竪穴住居群)が取り囲み、あわせて 600 軒を超える住居跡。 また広場の片側に盛土遺構 また焼失住居から屋根に土が乗っていた。
北海道 垣の島遺跡	南茅部町の現在の海岸線から標高で 50 メートルほどあがった比較的平らな海岸段丘でほぼ完全な馬蹄形の盛土遺構が見つかった。西北西に開口部を向けて、長軸が約 120 メートル、短軸が約 95 メートル、盛り土自体の高さは 1～2 メートル、幅は約 15 メートルほど。盛り土が作られたのは縄文時代後期初頭(約 4000 年前)盛り土としては、最古の時代に遡るとされる。
青森三内丸山遺跡	縄文時代を代表する中期 5000 年前の大規模集落 6 本柱・大型住居・墓の道・栽培植物・盛土遺構・土偶や土器はじめ大量の種々の出土品の多さと広く各地との交流等々 縄文観を変えた遺跡で世界遺産登録を目指す

日本最大の大型貝塚 加曾利貝塚



縄文中期～後期 千葉市若葉区加曾利



日本最大の大型貝塚 加曾利貝塚の全景 縄文中期～後期 千葉市若葉区加曾利



加曾利貝塚の位置

加曾利貝塚は、「高砂の中央と東西に流れる板所川の北流・南流の合流部に位置し、南は谷津川が流れる。標高は25mほど下りた谷津川をまたぐ。この南流は、その周辺に数多くの縄文遺構があり、古墳の分布帯であったと同時に、重要な交通路でもありました。

この貝塚からは多くの土器・縄文時代の遺物、この地産の土器、土器の原料産地とみられる日本産土の産地として発見されている。



- 1. 加曾利貝塚
- 2. 加曾利貝塚
- 3. 加曾利貝塚
- 4. 加曾利貝塚
- 5. 加曾利貝塚
- 6. 加曾利貝塚
- 7. 加曾利貝塚
- 8. 加曾利貝塚
- 9. 加曾利貝塚
- 10. 加曾利貝塚
- 11. 加曾利貝塚
- 12. 加曾利貝塚
- 13. 加曾利貝塚
- 14. 加曾利貝塚
- 15. 加曾利貝塚
- 16. 加曾利貝塚
- 17. 加曾利貝塚
- 18. 加曾利貝塚
- 19. 加曾利貝塚
- 20. 加曾利貝塚

加曾利貝塚遺跡



大型貝塚と小型貝塚が共存

加曾利貝塚では、約7,000-2,500年前（早期-晩期）の全時期にかけて、「むら」が連続している。しかも、各時代の伴遺物は、その大型貝塚の外周から検出され、当時の「むら」は、大型貝塚をまわ、その一角に集まるほど巨大なものであったことがわかる。

しかも、その「むら」の中に、大型貝塚と同時期の小型貝塚が共存している。これは、小型貝塚がその日その日の名家の「おみ捨て場」であったのに対して、大型貝塚が、「むら」全体に開通するものであったことを物語る。



加曾利 博士家邸への入口、北貝塚





加曽利 南貝塚

南貝塚の貝層

直径約170mの島錐形をした南貝塚は、おもに縄文後期（今から約4000～3000年前）の人々が、大量の貝を集中的に捨てた場所です。貝層のあちこちに焚火の跡と煮たき川の土器が発見されます。貝類はハマグリ・アサリ・シオフキなどで、おもに春先に採られたことがわかっています。

このようなことから、この貝塚はただのゴミ捨て場ではなく、大量の貝を土器で煮て身だけを取り出し、それを翌日に干して「干貝」に加工していた、むらむらの共同作業場の跡だったと考えられています。

貝塚の中心部

南貝塚の中心には、貝も捨てず住居跡も少ない広場があり、土器や岩輪や漆器人骨が集中して発見されています。干貝加工の共同生産では、日当りのいい干場になっていたに違いありません。

そのほか、この中央広場では、この地方からは産出しない硬い石材などと干貝とを交換する共同交易や、むらびとの結婚式、宴會のやり、死者のむらび、先祖の墓まつりなどの共同祭典を行なう場になっていました。いわば、この地域のむらむらの聖い場であったと考えられます。



▲ 煮貝（かわかんじゆ）・煮たき川土器は器の中心部で、こけいかに発見する。

▶ 干貝
煮たき川の土器の中心部で発見された干貝は、一層の「干貝」に加工されたもの。



大型貝塚と住居址群

かつて、貝塚はすべて日本のゴミ捨て場であるから、大型貝塚の跡は、その内側にある集居の跡を示すものと考えられていました。ところが、南貝塚の周辺部の調査によって、貝塚の内側よりもむしろ外側の周辺に多数の住居址が広がっていることが明らかとなりました。

この大型貝塚が、どのようにしてできたのか、まだまだ多くの謎を残していますが、貝塚を残した人びとの居住の場や周辺の集居との関係などにより、大型貝塚の神秘的機能や存在意義がようやく解明されつつあります。



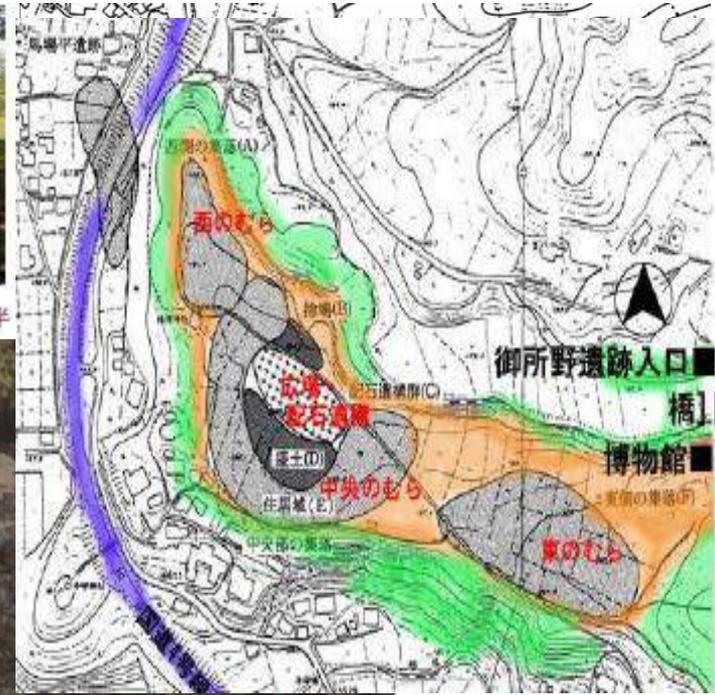
▲ 2004年、南貝塚の中心部から発見された大規模な貝層の断面。



▲ 2004年、南貝塚の中心部から発見された大規模な貝層の断面。



岩手県御所野集落遺跡の盛土遺構



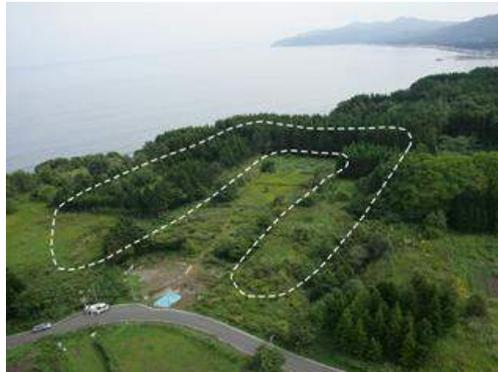
北東北 縄文の森の中 土屋根が載る竪穴住居群がストーンサークルのある広場を取り囲む御所野縄文遺跡 縄文中期後半



岩手県 御所野遺跡

縄文中期後半 4500 年前の大規模集落。 中央部広場に二つの隣接した配石遺構と土坑墓が中心に向かって環状に取り囲む。配石遺構はところどころに土坑墓の上に造られている。この周囲に3つの住居群(掘立柱住居群・竪穴住居群)が取り囲み、あわせて600軒を越える住居跡。 また広場の片側に盛土遺構 また焼失住居から屋根に土が乗っていた。

北海道函館市南茅部 垣の島集落遺跡の盛土遺構



垣の島遺跡 馬蹄型盛土

垣の島遺跡は 以前耕作地の今は植林をしている比較的平らな海岸段丘に広がり、盛り土の全体像はほぼ完全な馬蹄形で、西北西に開口部を向けて、長軸が約120メートル、短軸が約95メートル、盛り土自体の高さは1～2メートル、幅は約15メートルほど。発掘された土器の形式から、縄文時代後期初頭(約4000年前)の盛り土と推定。盛り土内外の試掘から、竪穴住居跡も密集していた様子が確認されている。この盛り土遺構は、現在見つかっている盛り土としては、国内で最古の時代に遡ると思われ、その規模の大きさとともに注目。

大量の縄文土器ほか大量の遺物が出土した三内丸山遺跡の盛土遺構 [1]



大量の縄文土器ほか大量の遺物が出土した 三内丸山遺跡の盛土遺構 [2]

みなみ もり ど
南 盛 土 (縄文時代中期)



盛土遺構全景

この小山のような南盛土も約1,000年かかってできたもので、厚さ2m～2m50cmにも達しています。

この断面をよく観察すると、土の色が微妙に違っていること、ほぼ水平に堆積していることが判ります。さらに、断面に見える土器も水平に堆積していることから、土器のうつり変わりも知ることができます。

この中からは多量の土器・石器のほか、ヒスイ製の玉、土偶など非日常的な遺物も数多く出土しており、単なるゴミ捨て場というより、お祭りをを行うなど特殊な場所として利用されていた可能性も考えられます。



盛土遺構の断面



調査風景



縄文の心を映す円環遺構を訪ねる <3> 環状列石・ストーンサークル

3. ストーンサークル・環状列石

- | | |
|-----------|--|
| 三内丸山遺跡墓の道 | 縄文中期 4500 年前 村の中心へ向かう 2 本の大きな道 その道の両側には 墓が並び その上に小さな配石遺構・ストーンサークルが立ち並びストーンサークルの原型 |
| 長野県 大野遺跡 | 縄文中期後葉 4000 年前の遺跡で、中央広場に直径 20m のストーンサークルがほぼ完全な形でみつかつかり、その周りを住居群が取り囲む。集落の中にあるストーンサークルとして、次の時代の集落外ストーンサークルへと発展する注目遺跡 |
| 青森県 小牧野遺跡 | 縄文後期前半 4000 年前 青森市の郊外南部の荒川と入内川に挟まれた舌状台地の標高 140m 付近に位置する縄文のストーンサークルを代表する一つ。円環を構成する区分それぞれが石組構造になっていて、膨大な日数と労力をかけて作られており、縄文人の組織力を見せつけるモニュメント。3 重構造の環状列石のほかに竪穴式住居跡、土器棺墓や土坑墓群、貯蔵穴や遺物の捨て場、湧水遺構、道路跡等が見つかっている。ストーンサークルの内側と外側の輪の間からは、「壘棺土器」と呼ばれる土器で作った棺が 3 つ埋められた状態で見つかっている。壘棺土器は、一度墓に埋葬した遺体を、数年後に肉が朽ちた後に取り出し、その取り出した遺骨を再び埋葬するための骨壘であると考えられている。 |
| 秋田県伊勢堂岱遺跡 | 縄文を代表するストーンサークルの一つ。雄物川に近接する大館能代空港近くの標高 40~45m の台地上に位置する、縄文時代後期前半（今から約 4000 年前）の大規模な遺跡で、A~D の 4 つのストーンサークルや墓、掘立柱建物跡、土壇墓、捨て場など、多くの祭り・祈りの施設・道具（ヒョウタン形の土器や板状土偶、キノコ形土製品など）もみつかつかり、墓場・祭祀の場と考えられている。
4 つのストーンサークルからやや離れた場所に、日時計型組石??? が数個みつかつかり、この組石の中心からストーンサークル A を見ると、夏至の日に太陽が沈む位置とだいたい一致すると考える説もある。 |
| 秋田県大湯環状列石 | 野中堂、万座に所在する 2 つの環状列石を主体とする縄文時代後期（約 4000~3500 年前）の大規模な集落跡。縄文を代表するストーンサークルの一つで、ストーンサークルの完成形と考えられている。
約 130 メートルの距離をおいて東西に対峙する野中堂と万座の環状列石。いずれも 100 基以上の配石遺構の集合体で、特殊な位置を占める「日時計状組石」1 基以外は全て 2 重の環状（外帯・内帯）に構築されている。
なお、両列石の規模は野中堂環状列石が径 42m、万座環状列石が径 48m である。組石は万座では 48 基、野中堂で 44 基。それぞれの組石の下に墓塚があることや副葬品が発見されたため大規模な共同墓地と考えられている。さらに万座の周辺調査から掘立柱建物跡群が巡らされていたことが明らかになり、これらは墓地に附属した葬送儀礼に関する施設ではないかと推測されている。また、大湯環状列石には日時計状組石があり、この日時計中心部から環状列石中心部を見た方向が夏至の日に太陽が沈む方向になっている。 |

三内丸山遺跡墓の道 日時計状配石・小型ストーンサークル [1]



村の中心から林の中に伸びる「墓の道」とそこに立ち並ぶ小型ストーンサークル・日時計状配石遺構 2000. 9. 15.

三内丸山遺跡墓の道 日時計状配石・小型ストーンサークル [2]



日時計状配石
真中の柱状の石がサークルの中心に立っていたと推定されている。



西盛土の端 丘の裾 住居跡・土坑墓等発掘現場
(左端に青いシートがかけられているあたりが日時計状配石が見つかったあたり)



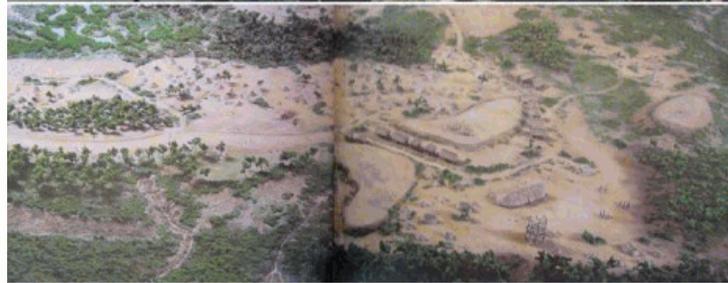
三内丸山遺跡から南の集落群に向う道



三内丸山遺跡墓の道 日時計状配石・小型ストーンサークル [3]



日本人のこころのふるさと 戦・けがれを知らず 村の中に祖先とついに暮らす縄文の集落
 青森 三内丸山縄文遺跡



青森三内丸山遺跡の集落全体図 模型

縄文中期出現期のストーンサークル 大野遺跡の集落内ストーンサークル

縄文中期 出現期のストーンサークル 集落内環状列石

- 大野遺跡（長野県大桑村）の環状配石遺構（縄文中期 4千数百年前）

http://www.interq.or.jp/www1/chungush/kiso/iseki.files/iseki_1.htm より

大桑村長野の大野遺跡は、縄文時代中期後葉（約4千年前）の環状配石遺構（ストーンサークル）で、竪穴式住居跡のほか、直径20mほどの環状配石遺構が、ほぼ完全な形で発見された。ストーンサークルは、祭祀の場や墓地などと考えられている。日本でこれまで発見されたものでは、最も古い。

また、同心円状に存在する住居跡と一緒に見つかる例は少なく貴重な例。また、遺跡の北側には直線状列石が見つかり、集落を区画するような形になっていますが何を意味するかわからない。

ストーンサークルを中央広場として、その外側に住居跡、高床式、地面に直接建った高床倉庫、平地式倉庫、その外側に住居跡が点々とある。環状列石を中心に同心円として真ん中には広場、環状列石、建物さらにその外側に竪穴の住居跡がまわるという同心円。



村の中にあるストーンサークル大野遺跡 縄文中期

青森県小牧野遺跡

大規模な石組で環状が作られた美しいストーンサークル



小牧野遺跡

縄文の代表環状列石 小牧野遺跡 青森市



壺棺土器
外と内の環の
間3ヶ所から
出土した



ストーンサークルに近接する部より、新たに土坑群・貯蔵穴・竪穴住居跡が見つかり、祭祀の場としての全貌があきらかになりつつある

青森県 小牧野遺跡



縄文後期前半 4000 年前 青森市の郊外南部の荒川と入内川に挟まれた舌状台地の標高 140m 付近に位置する縄文のストーンサークルを代表する一つ。円環を構成する区分それぞれが石組構造になっていて、膨大な日数と労力をかけて作られており、縄文人の組織力を見せつけるモニュメント。3 重構造の環状列石のほかに竪穴式住居跡、土器棺墓や土坑墓群、貯蔵穴や遺物の捨て場、湧水遺構、道路跡等が見つかっている。ストーンサークルの内側と外側の輪の間からは、「甕棺土器」と呼ばれる土器で作った棺が 3 つ埋められた状態で見つかっている。甕棺土器は、一度墓に埋葬した遺体を、数年後に肉が朽ちた後に取り出し、その取り出した遺骨を再び埋葬するための骨壺であると考えられている。

大規模な石組で環状が作られた美しいストーンサークル 青森県小牧野遺跡 [2]



小牧野遺跡
霧の中 誰もいない
神秘的な空間でした
H12.9.16.

大規模な石組で環状が作られた美しいストーンサークル 青森県小牧野遺跡 [3]



大規模な石組で環状が作られた美しいストーンサークル 青森県小牧野遺跡 [4]



大規模な石組で環状が作られた美しいストーンサークル 青森県小牧野遺跡 [5]

秋田県 伊勢堂岱遺跡 後期前半のストーンサークル



秋田 伊勢堂岱遺跡 C環状列石とA環状列石

縄文を代表するストーンサークルの一つ。雄物川に近接する大館能代空港近くの標高 40～45mの台地上に位置する、縄文時代後期前半（今から約 4000 年前）の大規模な遺跡で、A～D の 4 つのストーンサークルや墓、掘立柱建物跡、土壙墓、捨て場など、多くの祭り・祈りの施設・道具（ヒョウタン形の土器や板状土偶、キノコ形土製品など）もみつかっており、墓場・祭祀の場と考えられている。

4 つのストーンサークルからやや離れた場所に、日時計型組石???が数個みつかっており、この組石の中心からストーンサークル A を見ると、夏至の日に太陽が沈む位置とだいたい一致すると考える説もある。



秋田大館空港のすぐ北の丘 伊勢堂岱遺跡



秋田県鷹巣 伊勢堂岱のストーンサークル

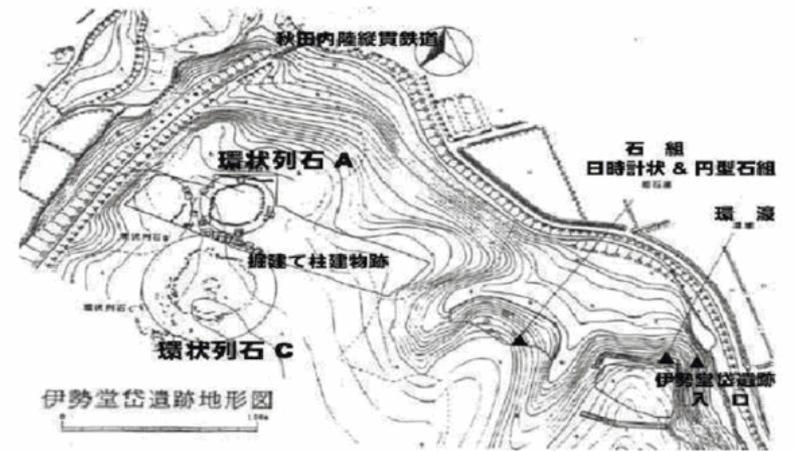
秋田県 伊勢堂岱遺跡 後期前半のストーンサークル[1]



伊勢堂岱遺跡の北すぐ下を流れる雄物川



伊勢堂岱遺跡の丘への入口



秋田県鷹巣 伊勢堂岱のストーンサークル

秋田県 伊勢堂岱遺跡 後期前半のストーンサークル[2]



秋田県 伊勢堂岱遺跡 ストーンサークル C

秋田県 伊勢堂岱遺跡 後期前半のストーンサークル[3]

環状列石 A



環状列石 C



石組



北に張り出したこの斜面からは、5基の石組が見つっています。たくさんの石を円形に並べたものや、中央に石を立て、その周りに縦長の石を並べて日時計のように組んだものがあります。日時計状の石組は、鹿角市の大湯環状列石でも見られます。

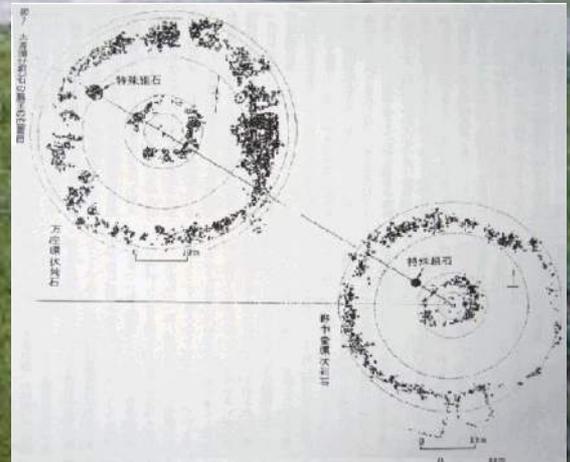
これらの石組は見つかったままの状態に残っています。石が崩れ落ちないように、ビニールシートをかぶせて保護しています。

入り口からストーンサークルへ登ってゆく北斜面で日時計状石組みが見つっている

伊勢堂岱遺跡 ストーンサークル A・Cと日時計状石組

秋田県 伊勢堂岱遺跡 後期前半のストーンサークル[4]

秋田県大湯のストーン サークル



秋田県大湯環状列石 縄文を代表するストーンサークルの一つで、ストーンサークルの完成形

野中堂、万座に所在する2つの環状列石を主体とする縄文時代後期(約4000~3500年前)の大規模な集落跡。

約130メートルの距離をおいて東西に対峙する野中堂と万座の環状列石。いずれも100基以上の配石遺構の集合体で、特殊な位置を占める「日時計状組石」1基以外は、全て2重の環状(外帯・内帯)に構築されている。なお、両列石の規模は野中堂環状列石が径42m、万座環状列石が径48mである。組石は万座では48基、野中堂で44基。それぞれの組石の下に墓壇があることや副葬品が発見されたため大規模な共同墓地と考えられている。

さらに万座の周辺調査から掘立柱建物跡群が巡らされていたことが明らかになり、これらは基地に附属した葬送儀礼に関する施設ではないかと推測されている。関する施設ではないかと推測されている。

また、大環状列石には日時計状組石があり、この日時計中心部から環状列石中心部を見た方向が夏至の日に太陽が沈む方向になっている。

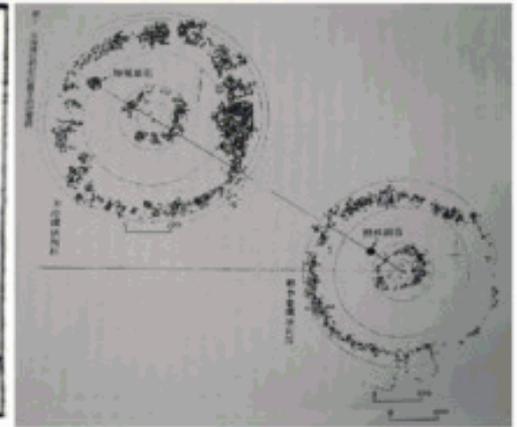
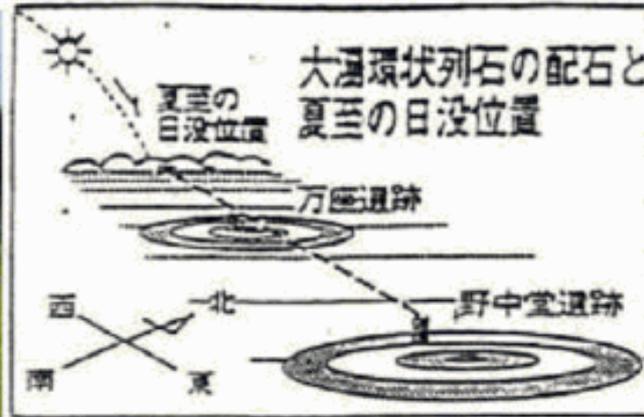
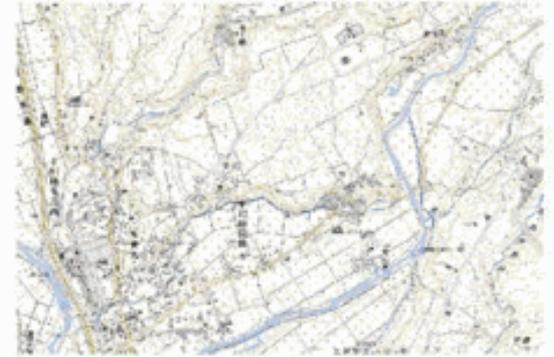
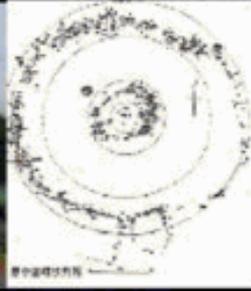
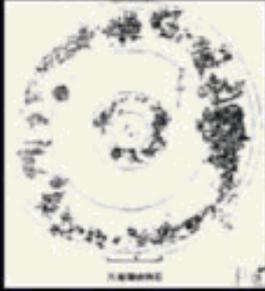
秋田県大湯環状列石 万座遺跡と野中堂遺跡

2000.8.4.

万座遺跡

〔大湯 ストーンサークル〕

野中堂遺跡



野中堂遺跡



万座遺跡

【 野 中 堂 遺 跡 】



日時計状遺構



2000年 8月当時の 大湯・野中堂遺跡



現在の 大湯・野中堂遺跡

〔 万 座 遺 跡 〕



2000年8月当時の大湯・万座遺跡



現在の大湯・万座遺跡

北海道のストーン サークル

北海道 虻田5遺跡 北海道虻田町の海岸線から1km内陸 標高約70mの台地に位置する縄文後期前半(約4000年前)の環状列石で同時期の集団墓地と考えられる竪穴墓域とともに発見。

駒ヶ岳のすぐ下 厚い火山灰でバックされていて良好な保存状態。石の上のほうが見え隠れしているために発見された。環状列石は、外帯・内帯・中央帯の3重に石が丸く並べられ、これまでの調査では石の下にお墓はない。外側の形はやや楕円形で、長軸約3.7メートル、短軸約3.4メートル。外帯と内帯はおよそ0.5メートルの幅で巡らされ、内帯は長軸が約3.5.5メートル、短軸が約3.3メートル。中央帯は環状列石の中心部にあり、長軸4メートル、短軸2.5メートルの楕円形。

環状列石の石の数は約530個あり、穴を掘って埋め込まれているものやそのまま置かれたものなどが見られ、大きさは20~60センチメートルほどのは平伏と棒状の石を桂川の川原から運んで来たものと考えられる。また、環状列石をつくる前には、あたりの地面を削って平らにする大掛かりな土木工事をしていたことが地層の観察からわかった。出入り口と考えられる部分や、埋設土器とよばれるもの1ヶ所が見つかりました。これ埋設土器は乳幼児を入れて埋葬したり、遺骨が骨になった段階で再埋葬するのに使われたものと考えられている。また、環状列石に接して発見された墓域は大型の竪穴(最大11.5m)を掘り込んだ中に大小11基の土坑墓。

この墓域は縄文末期3000年前に北海道で見られる周堤墓の原型とも推定されている。

環状列石のまわりには、竪穴式住居など集落の跡が見つからず、ふだんの生活の場所とは離れた葬送や祭祀を行う神聖な場所と考えられます。

北海道 忍路遺跡群 約3,500年前縄文時代の後期のストーンサークルで、この時代に出現する「区画墓」と呼ばれる集団の墓地と考えられている。小樽市街を抜けて西へ海岸沿いを余市のほうへ10kmほど行った標高約130mの三笠山の麓にある。大きさは現在の指定の面積で821平方メートル、直径は南北約33m・東西約22mの楕円形でサークルは2~3mの幅に高さ10~20cmの小石を環状に重ね置き、その内側に高さ100~200cmの大石を配置されている。石材はその一部を、余市町のシリバ岬一帯の柱状節理の輝石安山岩に求めている。近代になり、一部手を加えられ、造られた当時とは異なった所があります。

この環状列石の北側に隣接する同じ時代の忍路土場遺跡から巨大木柱が発見されており、環状列石と関連する祭祀的な遺跡と考えられ、大量の土器、石器、建材、漆製品、等が出土。

小樽・余市の間はストーン・サークルの密集地帯で、ほかに地鎮山のストーン・サークル、余市町西崎山のストーン・サークルがある。地鎮山のストーン・サークルはあきらかに墓の様相を呈している。

北海道 森町 鷲ノ木5遺跡 ストーンサークル

北海道森町の海岸線から1km内陸 標高約70mの台地に位置する縄文後期前半(約4000年前)の環状列石で、同時期の集団墓地と考えられる竪穴墓域とともに発見。

駒ヶ岳のすぐ下 厚い火山灰でバックされていて良好な保存状態。石の上のほうが見えきらずに見えていたために発見された。環状列石は、外帯・内帯・中央帯の3重に石が丸く並べられ、これまでの調査では石の下にお墓はない。外側の形はやや楕円形で、長軸約3.7メートル、短軸約3.4メートル。外帯と内帯はおよそ0.5メートルの幅で巡らされ、内帯は長軸が約3.5.5メートル、短軸が約3.3メートル。中央帯は環状列石の中心部にあり、長軸4メートル、短軸2.5メートルの楕円形。

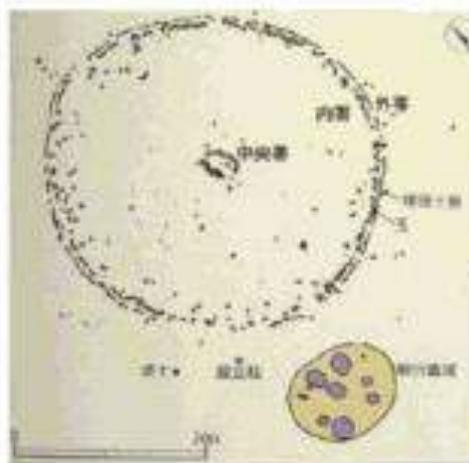
環状列石の石の数は約530個あり、穴を掘って埋め込まれているものやそのまま置かれたものなどが見られ、大きさは20~60センチメートルほどのは平状と棒状の石を桂川の川原から運んで来たものと考えられる。また、環状列石をつくる前には、あたりの地面を削って平らにする大掛かりな土木工事をしていたことが地層の観察からわかった。出入り口と考えられる部分や、埋設土器とよばれるもの1ヶ所が見つかりました。これ埋設土器は乳幼児を入れて埋葬したり、遺骨が骨になった段階で再埋葬するのに使われたものと考えられている。また、環状列石に接して発見された墓域は大型の竪穴(最大11.5m)を掘り込んだ中に大小11基の土坑墓。

この墓域は縄文末期3000年前に北海道でみられる周堤墓の原型とも推定されている。

環状列石のまわりには、竪穴式住居など集落の跡が見つからず、ふだんの生活の場所とは離れた葬送や祭祀を行う神聖な場所と考えられます。



鷺ノ木 ストーンサークル 森町鷺ノ木5遺跡



円環部



中心部



基 城



埋設土器



忍路 ストーンサークル 2005. 4. 27.



西崎山 環状列石 余市町 2005. 4. 27.

忍路環状列石

地鎮山環状列石

西崎山環状列石

北の縄文 恋路海岸にストーンサークルを訪ねる
2005. 4. 27.





忍恋路環状列石群

約 3,500 年前縄文時代の後期のストーンサークルで、この時代に出現する「区画墓」と呼ばれる集団の墓地と考えられている。小樽市街を抜けて西へ海岸沿いを余市のほうへ 10km ほど行った標高約 130m の三笠山の麓にある。大きさは現在の指定の面積で 821 平方メートル、直径は南北約 33m・東西約 22m の楕円形でサークルは 2~3m の幅に高さ 10~20cm の小石を環状に重ね置き、その内側に高さ 100~200cm の大石を配置されている。石材はその一部を、余市町のシリバ岬一帯の柱状節理の輝石安山岩に求めている。近代になり、一部手を加えられ、造られた当時とは異なった所があります。

この環状列石の北側に隣接する同じ時代の忍路土場遺跡から巨大木柱が発見されており、環状列石と関連する祭祀的な遺跡と考えられ、大量の土器、石器、建材、漆製品、等が出土。

小樽・余市の間はストーン・サークルの密集地帯で、ほかに地鎮山のストーン・サークル、余市町西崎山のストーン・サークルがある。地鎮山のストーン・サークルはあきらかに墓の様相を呈している。



忍恋路環状列石群

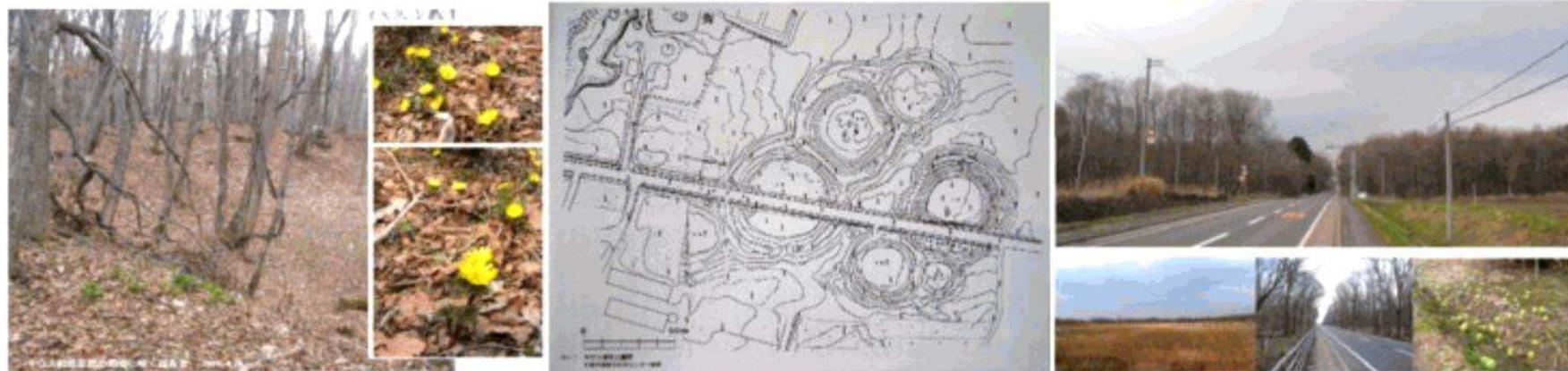
4. 周堤墓

国指定史跡 キウス周堤墓群（千歳市）

縄文後期（約 3000 年前）の集団墓地 キウス周堤墓 千歳市の中心から東方 9 km、石狩低地帯を望む馬追丘陵南西麓のゆるやかな斜面に立地。地面を丸く掘り、掘った土を周囲に土手状に積み上げ、その内側が墓地になっており、周囲に堤があることから「周堤墓」と呼ばれている。キウス周堤墓群 7 基の墓のうち、最大のもは直径が 75m にも達します。土手の上から竪穴の床までの深さは 5.4m、最も小さな墓の直径は 20m です。現在、キウス周堤墓群とその周辺には 24 基の墓が見つかった。



約 3000 年前 縄文後期の共同墓 キウス周堤墓 2007. 4. 26.





千歳市 キウス周堤墓群

5. 北陸 縄文のウッドサークル

雪深い北陸に出現した縄文のウッドサークル

源の国 越・能登の国で育まれた巨大柱列
縄文のウッド サークル



金沢 子カモリ遺跡 小浜市 稲町遺跡

縄文の風習で 薪でも建て替えられ、東宮の方向を向いて 集落を見守る
巨大な樺の木を半割りにした日本の柱が環状に建ち、
その中では、祭りが行われたか・・・
諏訪神社の豊前守神社の鳥居のループかも・・・

館登 真箇縄文遺跡
石川県歴史博物館 2014.4.1

復元 稲町遺跡環状木柱列
石川県歴史博物館での複製展示 | 2014.4.1

5. ウッドサークル 環状木柱列

石川県子カモリ遺跡 金沢市西南部にある縄文時代後・晩期の集落遺跡 環状木柱列（ウッドサークル）

直径約80cmほどのクリの木を縦に半分に割った巨大な木柱を直径約7mの環状に立て並べた環状木柱列が重複して発見され、縄文人の木工技術の高さを示すと共に、その性格を巡って注目を集めた。環状木柱列は柱の根元が残るだけで上部の構造は推測するしかなく儀礼の場や特殊な建物などいろいろな考えが出されているが、今のところはっきりとしない。

直径30~85センチメートルの巨木が総計347本も発見され、それら木柱の多くは縦に半分に割られ、断面がカマボコ形になっているものやU字形に加工されている。これら木柱のうち直径50センチ以上の23本の巨大な木柱は、集落の中央広場付近に8~10本が組みになって、直径6~8メートルの円形に規則正しく並べて立てられ、環状木柱列が重複して出土。これら、木柱根の出土が縄文時代の遺跡の中で極めて多く巨木文化の存在が考えられ、祭祀施設と想定されている。

石川県 真箇遺跡

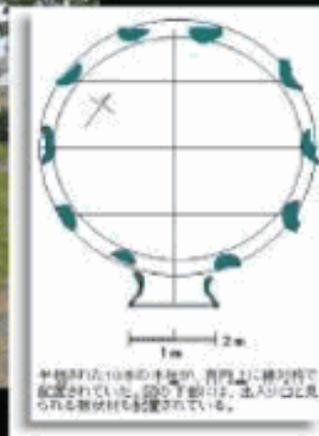
縄文時代の前期初頭（約6000年前）から晩期終末（約2300年前）まで、約4000年の間繁栄を続けた長期定住遺跡。能登半島の先端から少し内海に入った入江の奥にあって、採集・漁撈の生活を営む集落で、標高4~12mの低地に位置する湿地遺跡であったため、普通は腐って残りにくい動植物で作られた遺物が大量に保存されていた。特に前期末から中期初頭（約5000年前）の層から大量のイルカの骨が出土し、その数の多さから真箇の縄文人はイルカ漁を行っていたと考えられている。

また中期中葉（約4500年前）の層からは板敷き土壌墓が4基見つかり、晩期（約2800年前）の土層からは巨大なクリの木を半割りし、円形に立てて並べた「環状木柱列」が見つかった。

木柱列はクリ材の半円柱10本で直径7.4メートルの環状に取り囲み、各々の柱を半分に割り、丸い方を円の内側に向けている。その太さは直径80~96センチもある。小さな環状もあり、環状木柱列は何度も立て替えられたと考えられる。

縄文のストーンサークル

金沢 手カモリ遺跡



縄文の巨大木柱列「ウッドサークル」
(隣接地での推定復元)

金沢市手カモリ遺跡 2004. 4. 7.



能登 真脇遺跡のウッド サークル



縄文時代晩期(約2800年前)の環状木柱列 復元 2011.11月

長さ約8m、幅約80~100cmの半割のクリ木柱10本を、直径約7mの環状に配列。
海に面した南側には「門扉」として地上高3.5mの木柱4本も立てられました。

石川県真脇のウッドサークル

出土した縄文の「ウッドサークル」 真脇遺跡資料より

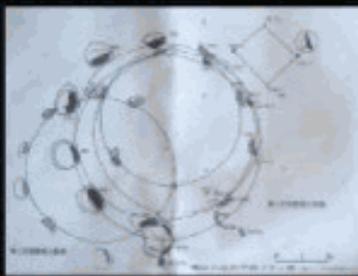
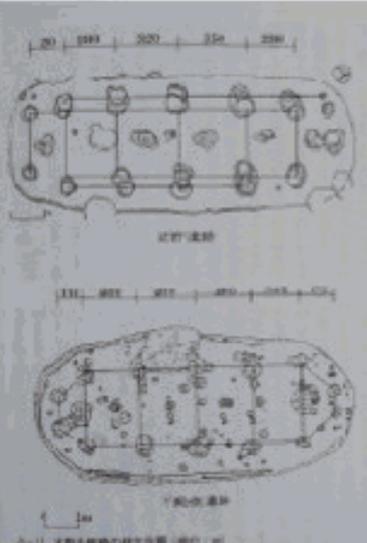
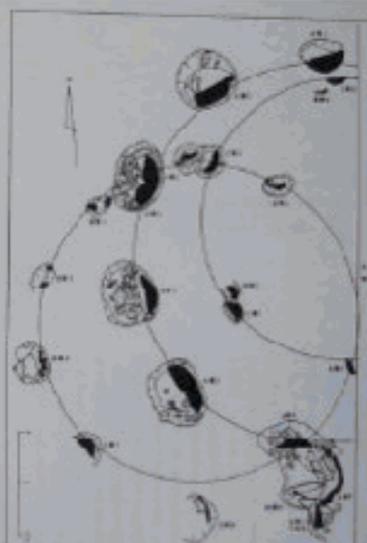
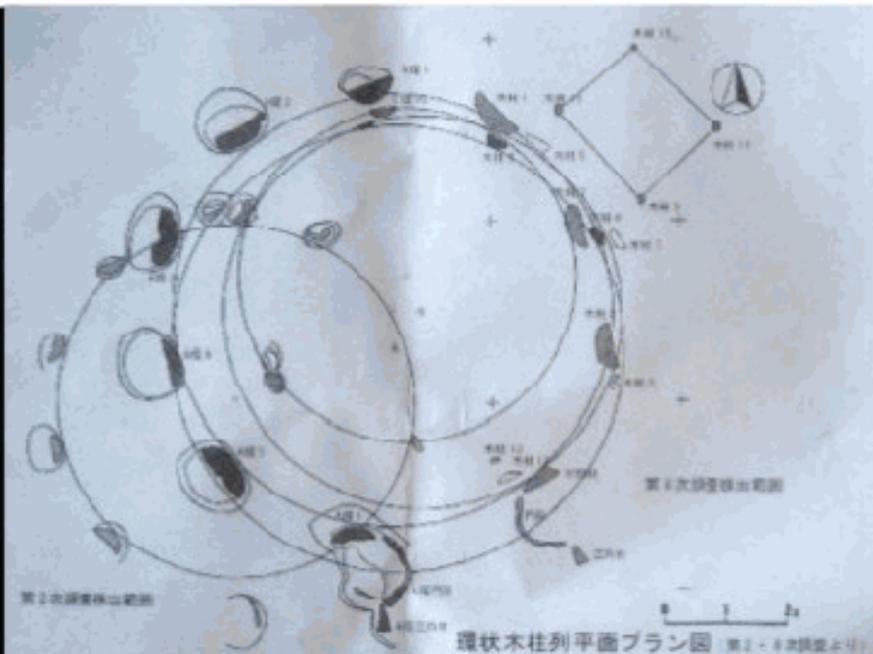


図1 出土した環状木柱列の平面プラン（第2、4次調査資料より）
 図1は、第2次調査資料より出土した環状木柱列の平面プランを示しています。このプランは、直径約4mの円形プランに約10本の木柱がほぼ等間隔に配置されています。その間隔から、Wood 10本、20cm間隔、20cm厚の土層が分かることができます。遺跡は遺構していることが、出土した土層の断面から推定されています。この遺構は、縄文時代の遺構と推定されています。



木柱柱

柱	長	径	15-18	19-20	21-22	23-24	25-26	27-28	29-30	31-32	33-34	35	計
真脇	0	1	3	7	18	9	2	1	0	0	0	0	34
ナカノ	18	54	27	55	81	27	33	1	0	0	0	0	266

木柱

柱	長	径	15-18	19-20	21-22	23-24	25-26	27-28	29-30	31-32	33-34	35	計
真脇	0	1	3	7	18	9	2	1	0	0	0	0	34
ナカノ	0	18	9	27	54	27	33	1	0	0	0	0	169

木柱柱

柱	長	径	15-18	19-20	21-22	23-24	25-26	27-28	29-30	31-32	33-34	35	計
真脇	0	1	3	7	18	9	2	1	0	0	0	0	34
ナカノ	0	18	9	27	54	27	33	1	0	0	0	0	169
ナカノ	0	18	9	27	54	27	33	1	0	0	0	0	169



6. 北陸 糸魚川市 木柱列と配石遺構の両方が一緒に見つかった寺地遺跡

木柱列と配石遺構の両方が一緒に見つかった寺地遺跡 糸魚川市 縄文晩期



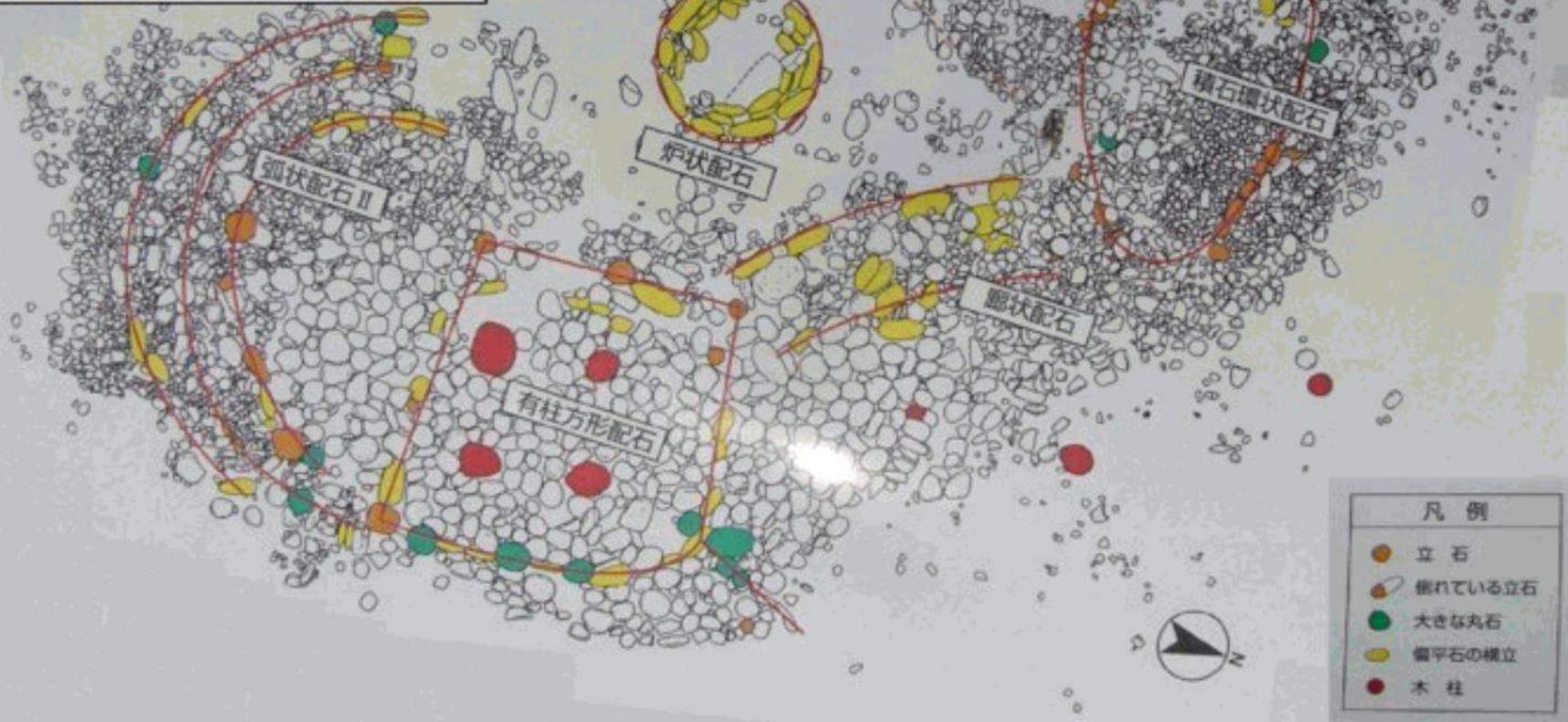
糸魚川市 寺地遺跡 【1】 木柱列と配石遺構が一緒に発見された縄文遺跡 3000年前 縄文晩期

美智的1ダロネート丸、美智的9ダロネート丸の敷面内にも縄文時代の中期から晩期の遺跡で、ヒスイの玉地帯したとされる「麻玉工器跡」(縄文中4)や祭祀の形跡がうかがえる縄文前期配石遺構や比叢社が検出され、現在は配石遺構合築として 復原されている。



配石遺構 出土品 御物石器も出土





木柱列とストーンサークルの両方がある寺地遺跡 縄文晩期 配石遺構 糸魚川市

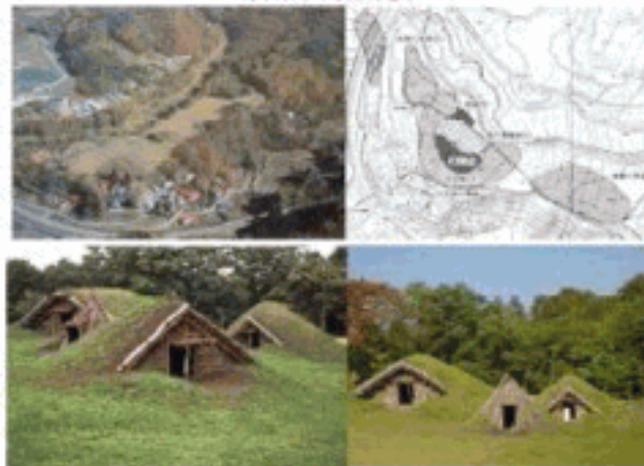
縄文の大集落 三内丸山遺跡と御所野遺跡



配石遺構の1例 径2mほどの規模で環状の緑石をめぐらし、内側にも石が置かれています。ほかにも中央に大きな石、平たい石を置くものがみられます。



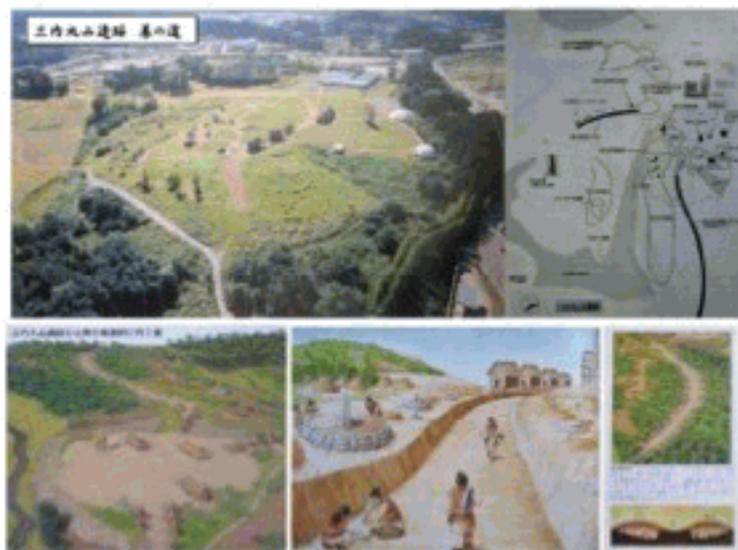
日本人のこのころのふるさと 縄文時代の暮らし 樹の中に緑地といっしょに暮らす縄文の集落
三内丸山跡の環状集落



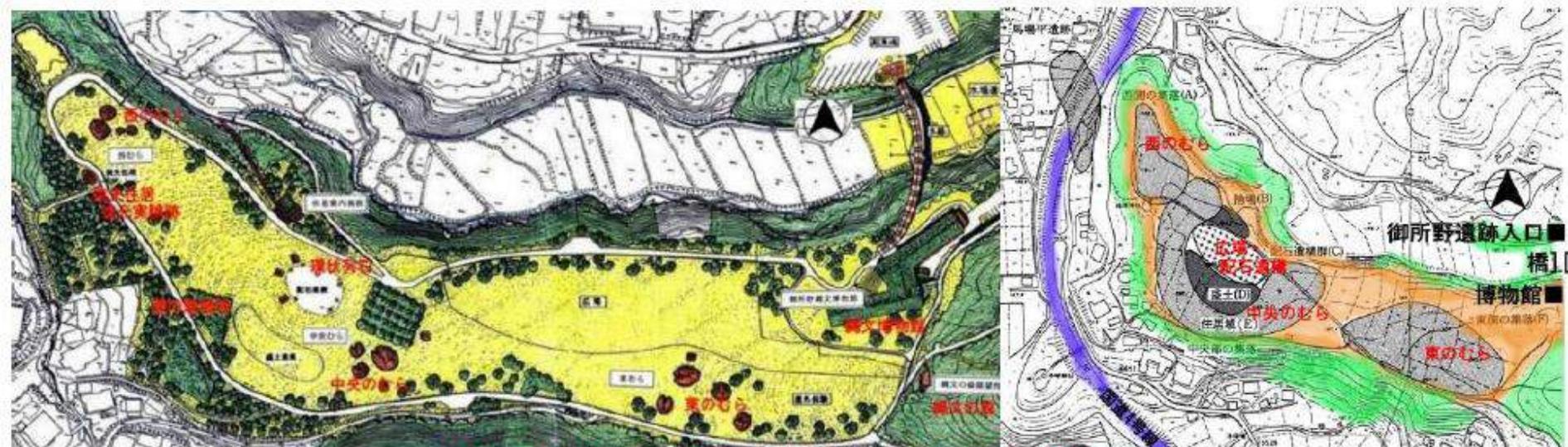
御所野遺跡 環状集落・配石遺構・馬蹄型盛土遺構

日本人のこのころのふるさと 縄文時代の暮らし 樹の中に緑地といっしょに暮らす縄文の集落

会場 三内丸山跡の環状集落



三内丸山遺跡 墓の道



縄文遺跡公園として整備された 御所野遺跡 全体図



北東北 縄文の森の中 土屋根が載る竪穴住居群がストーンサークルのある広場を取り囲む御所野縄文遺跡 縄文中期後半

日本人のこころのふるさと 戦・けがれを知らず 村の中に祖先といっしょに暮らす縄文の集落

青森 三内丸山縄文遺跡



三内丸山遺跡 全景



日時計型配石が立ち並ぶ墓の道



村の道には
小型のストーンサークル

縄文の大集落 三内丸山縄文遺跡



東の端より 三内丸山遺跡 全景 中央奥が収蔵庫 2009. 9. 5.
収蔵庫の後ろに白い斜張橋が見えるのが 北海道に延びる東北新幹線である



西の端 収蔵庫前より 三内丸山遺跡 全景 2009. 9. 5.

現在の三内丸山遺跡

① 環状配石墓

② 道路跡

③ 高麗土

竪堀内では高麗土の断面の美観が見学できます。約1000年かけて積み重ねられた高麗土の断面を観ることができます。



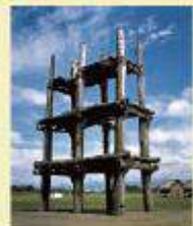
④ 大型竪穴住居 (復元)

復元したものは高さ22mで、10層見つかった大規模な住居跡のうち最大のものであります。



⑤ 大型竪立建物 (復元)

高さ11.7mの建物として復元しています。竪堀内では傾斜される柱穴を見学することができます。



⑥ 子供の墓 (高麗土層)

竪堀内では、高麗土層の遺物を見学することができます。



⑦ 土器土

竪堀にも残っている少量の土器の出土収集品、実物で見学することができます。

⑧ 土の谷 (環状溝)



はじめに

三内丸山遺跡は、青森県にある縄文時代の拠点集落です。

これまでの発掘調査で縄文時代前期中葉から中期末(約5500年前～4000年前)の大量集落や平安時代集落跡(約1000年前)、中貝末(約400年前)の環状溝の一部が見つかっています。

特に、縄文時代の大量集落からは、たくさんの竪穴住居跡、竪立柱建物跡、大量の遺物が出土された谷(泥炭層)、大規模な高麗土、大人の墓、子供の墓、土器作りのための粘土採取穴、貯蔵穴などが見つかりました。

谷から見つかった動物や魚の骨、植物の種子や花粉からは、当時の自然環境や食生活などを具体的に知るすることができます。

また、ヒスイやコハク、黒曜石は遠方との交易品、漆器は高麗土の技術を持つ人がいたことを物語ります。

このように、三内丸山遺跡は、縄文時代の人々の生活を具体的に知ることができる貴重な遺跡として、2000年には国の特別史跡に指定されました。また、2003年には出土遺物1,938点が重要文化財に指定されました。

青森県では、縄文時代の「むら」を体験できる公園として、三内丸山遺跡の整備を進めています。

⑨ 竪穴住居 (復元)

土器は、土器、高麗土、土器の3種類の復元をしています。



⑩ 大人の墓 (土坑墓)

長さ約2mの縦長い墓穴で、大人が埋葬された遺跡です。直線に掘って円柱にまがります。



⑪ 竪立建物 (復元)

高麗土建築として3棟を復元しています。



資料「三内丸山遺跡 ー縄文時代の大規模集落ー」より

<http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/about/image/sannaimaruyama.pdf>



縄文時代の扉を開く

縄文時代は今から約1万2～3千年前に始まり、約2千3百年前に終わりました。その約1万年間を「縄文時代」、その文化を「縄文文化」と呼んでいます。縄文時代には土器の製作と矢の使用が始まり、ムラが作り始められました。縄文時代より前は「旧石器時代」、縄文時代の後は「弥生時代」になります。

三内丸山遺跡から見てきたもの



■ 集落の構造 ■

縄文人は土地の使い分けをしていた。特に墓と普段生活している住居は厳密に分けられています。他に家が密集して作られる所、まつりの場所、物をしまう・貯蔵する場所、ゴミ捨て場などを作っていました。



集落のようす VILLAGE

遺跡の規模は、全体で約38ヘクタールあります。これは東京ドーム約7個分くらいになります。発掘調査によって集

落の構造が少しずつ明らかになってきました。

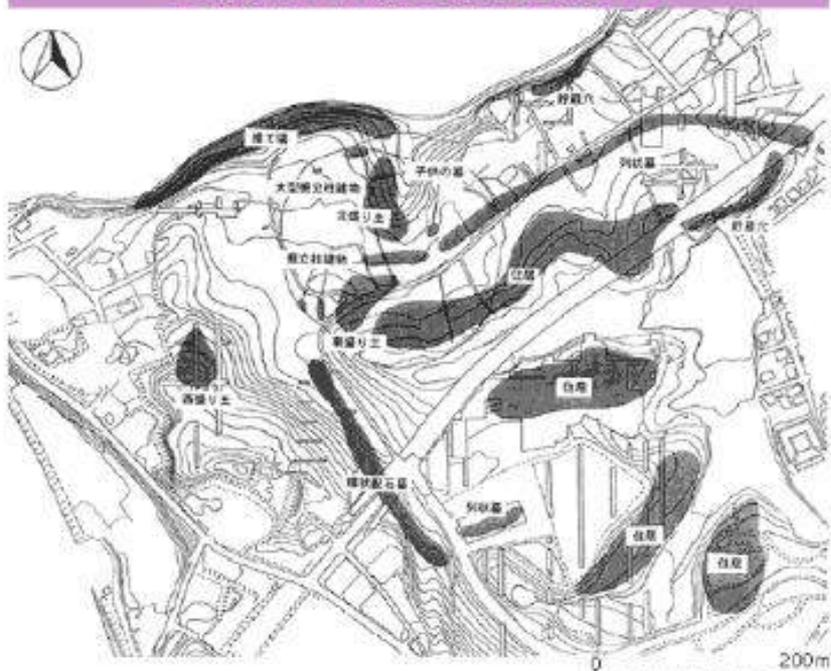
■ 集落の立地 ■

遺跡は八甲田山から続く緩やかな丘陵の先端にあります。当時は豊かな落葉広葉樹の森が広がっており、クリ、クルミ、山芋などが豊富でした。

また、近くの陸奥湾は、年間平均の波の高さが約30センチメートルと穏やかな内湾で、魚が豊富でした。集落の北側を沖館川が流れており、海にそそぐ河口近くの小高い丘の上に縄文の人々は村を作っていました。

この場所は食料を得る上では好都合でした。海と森の恵みを組み合わせて、一年間この場所で安定した生活をする事ができました。

■ 縄文時代中期中頃の三内丸山集落の様子 ■



墓

TOMB

大人の墓と子供の墓は区別されてい
ました。また、通路に沿うように墓を配置
するなど、墓を作るにはいろいろなさまざ

があったようです。

■ 大人の墓 ■



集落の東側から大規模な大人の墓地が
見つかっています。大人は亡くなると地面に楕円形の穴を掘って埋
葬しました。大きさは1~2.5メートルで、手足を伸ばし
て埋葬されたものと考えられます。中から土イイのペン
ダントややじりりがまとまって出土した墓もあります。

■ 墓の配置 ■

大人の墓は南北を向くように通路をはさんで東西方向2列に、それぞれ足を向けて、向か
い合うように配置されていました。

■ 墓と通路 ■

2列に並んだ墓の間には通路が通っていました。縄文時代の通路は地面を掘り下げて、浅
い溝のようになっていました。幅約12メートル、長さが420メートル以上海の方へ延び、そ
の両側に大人の墓が並んでいました。

■ 環状配石墓 ■

集落の西側から、周りを石で囲んだ、この集落の有力
者のものと考えられる墓が見つかっています。直径が
約4メートル程で、土を盛り上げているものもありました。こ
れらは通路にそって斜面に並んでいます。



■ 子どもの墓 ■



子どもは亡くなると、普段使っている土器の中に遺体
を入れ、埋葬します。土器の大きさから考えて、おそら
くは1才前後の子どもの墓と考えられます。中から丸い石が
見つかる場合が多いです。これまでに800基以上の子
どもの墓が見つかっています。

技術

TECHNIQUE

■ 漆製品 ■



出土した漆器

三内丸山遺跡の依地から赤漆塗りの木製
皿などがみついているほか、赤色顔料など
もみつかり漆製品が製作されていたと
考えられます。縄文時代の前期中頃(約
5,500年前)のもので、漆は一本の木から
の樹脂の採取量が少なく、精製に専門的
な技術が必要です。三内丸山遺跡には、そ
うした高い技術を持つ人がいたことがわか
ります。



復元した漆器

■ 縄文ボネット ■

イグサ科の植物を利用して編んだ、小さな
袋が出土しました。網代編みで作られていま
す。完全な形のものには日本でこれだけです。

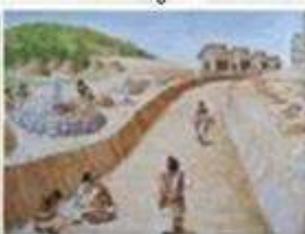


縄文ボネットの中に入っていたクマタ

縄文人の精神世界と深くかかわった「縄文の渦巻き・同心円紋」文化



図5 「縄文のビーナス」 2003.12.8 茨城県立歴史館



縄文人の精神世界と深くかかわった「縄文の渦巻き・同心円紋」文化



参考資料

1. M.Nakanishi 縄文のストーンサークル等 訪問 Country Walk

- 縄文人の心を映すストーンサークル 東北 秋田・青森のストーンサークル
<http://www.ne.jp/asahi/mutsuo/nakanishi/jst1aa07.pdf>
- 日本最大の大型縄文貝塚 加曾利貝塚遺跡探訪 加曾利縄文貝塚公園
<http://www.ne.jp/asahi/mutsuo/nakanishi/kasori.pdf>
- 北陸・能登に点在する縄文のウッドサークル探訪 金沢チカモリ・能都真脇・小矢部桜町遺跡
<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron09.pdf>
- 早春と冬が入り混じる「北の大地」を風来坊 北の縄文を訪ねて
<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/pdfwalk/4walk05.pdf>
- 日本人の心の故郷 縄文の集落がそっくりそのまま見つかった
茅ヶ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる
<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/iron2/hskzu01.pdf>
- 【和鉄の道・Iron Road】【鉄の雑記帳】 日本人の心のふるさと「心優しき縄文人」の知恵
「利他的精神」について 朝日新聞天声人語にこんな記事が…… 2014.6.1.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/14iron05.pdf>

○ Iron Road 「縄文 walk」リスト

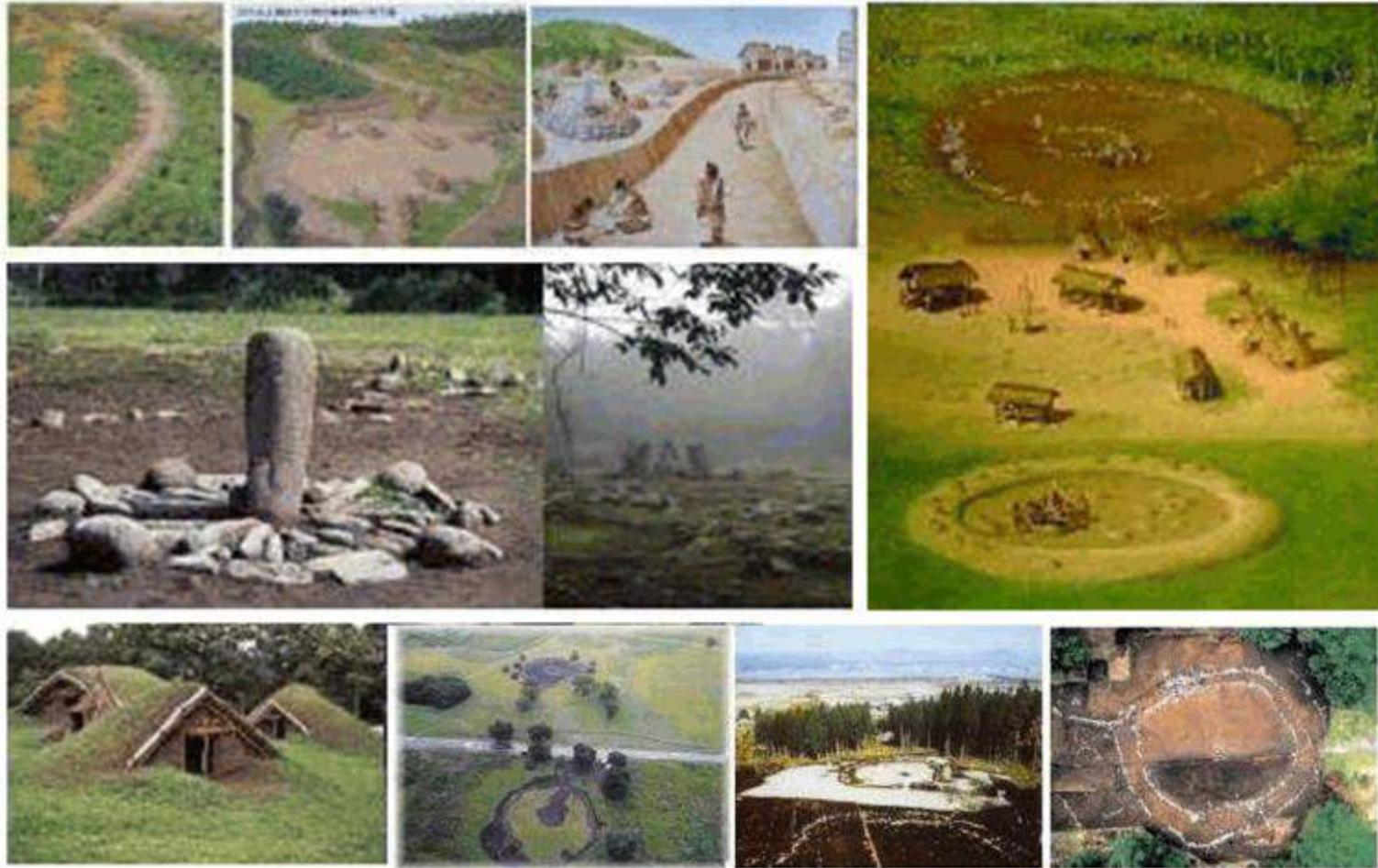
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/ironjomon.htm>

2. 発掘された日本列島 2005 & 2006 ほか
3. 三内丸山発信の会「縄文ファイル」
4. 三内丸山遺跡から縄文列島へ 「縄文文化の扉を開く」
6. 三内丸山遺跡と北の縄文世界
7. 縄文文化の超自然観 - 死と再生のシンボリズム - 明治大学 蛭川研究室
http://www.kisc.meiji.ac.jp/~hirukawa/anthropology/area/ne_asia/Jomon/

縄文の心を映すストーンサークル

- 縄文の円環を訪ねて -

日本各地に点在する縄文の心を映す円環遺構を訪ねる



鹿角 大湯ストーンサークル

嵐山 伊勢堂古遺跡

青森 小牧野遺跡

皆さんには どう 映りましたでしょうか